

**(品目別需給編)**

## 1 小麦

### (1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2023/24 年度

**生産量** 前年度比 前月比

- ・米国等で上方修正されたものの、EU、カナダ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

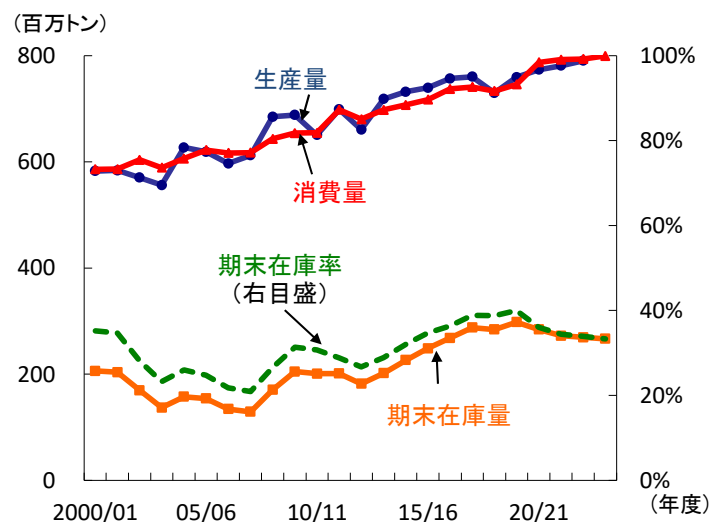
**消費量** 前年度比 前月比

- ・カナダ等で下方修正されたものの、中国、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 前月比

- ・ロシア、豪州等で上方修正されたものの、アルゼンチン、カナダ等で下方修正され、前月から下方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 前月比



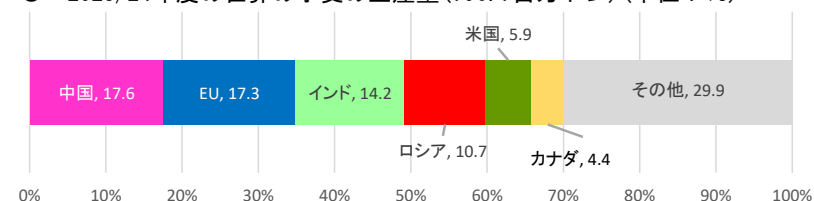
### ◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

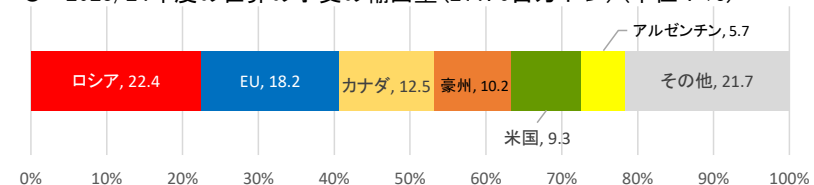
| 年 度   | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 |               |                |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 781.1   | 790.2            | 796.7   | ▲ 3.5         | 0.8            |
| 消 費 量 | 792.5   | 793.5            | 799.5   | 3.3           | 0.8            |
| うち飼料用 | 161.1   | 156.4            | 157.1   | 2.3           | 0.5            |
| 輸 出 量 | 202.9   | 217.2            | 211.6   | ▲ 1.0         | ▲ 2.6          |
| 輸 入 量 | 199.4   | 210.5            | 208.0   | ▲ 1.6         | ▲ 1.2          |
| 期末在庫量 | 272.6   | 269.3            | 266.5   | ▲ 4.2         | ▲ 1.0          |
| 期末在庫率 | 34.4%   | 33.9%            | 33.3%   | ▲ 0.7         | ▲ 0.6          |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 July 2023)

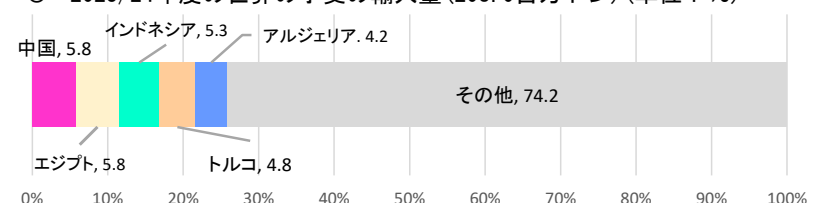
#### ○ 2023/24年度の世界の小麦の生産量(796.7百万トン)(単位: %)



#### ○ 2023/24年度の世界の小麦の輸出量(211.6百万トン)(単位: %)



#### ○ 2023/24年度の世界の小麦の輸入量(208.0百万トン)(単位: %)



## (2) 国別の小麦の需給動向

### ＜ 米国 ＞ 2023/24 年度の生産量は前月予測から上方修正され 47.3 百万トン

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2023/24 年度の実生産量は、収穫面積と単収の増加から、前月予測より 2.0 百万トン上方修正され 47.3 百万トンと、過去 5 年平均を 2.8% 下回るものの、前年度に比べ 5.4% 増加の見込み。USDA「Crop Production」(2023.7.12)によれば、冬小麦は 32.8 百万トンと前年度に比べ 9.3% 増加したものの、春小麦は単収の低下から 13.0 百万トン、デュラム小麦は作付面積と単収の低下から 1.5 百万トンと、前年度に比べそれぞれ 0.7% 減、15.6% 減となる見込み。

なお、USDA 作付面積報告「Acreage」(2023.6.30)によれば、2023/24 年度の実小麦全体の作付面積は、20.08 百万ヘクタールと前年度に比べ 8.5% 増、過去 5 年平均に比べ 7.8% 増となった。品種別には、小麦全体の約 70% を占める冬小麦は 14.98 百万ヘクタールと同 11.2% 増加、春小麦は 4.51 百万ヘクタールと同 2.8% 増加した一方、デュラム小麦は 0.60 百万ヘクタールと同 9.1% 減少した。また、冬小麦主産地のカンザス州、ネブラスカ州では前年度に比べ作付面積は増加したものの、乾燥天候により耕作放棄地が増加するとみられている。

USDA の「Wheat Outlook」(2023.7.14)によれば、7 月 11 日現在、春小麦生産地の 25% が干ばつ状況にあり、単収予測が前年度を下回る等の影響が懸念されている。

USDA の「Crop Progress」(2023.7.17、7.10)によれば、7 月 16 日時点で冬小麦の収穫進捗率は 56% と前年同期(69%)、過去 5 年平均(69%)を下回っている。また、作柄評価は、「良～やや良」の割合が、7 月 9 日時点で 40% と前年度(31%)に比べ 9 ポイント増加したものの、主産地のカンザス州では 2 年続きの干ばつに見舞われ 18% と前年同期(29%)を下回っている。また、春小麦は、7 月 16 日時点で、出穂進捗率は 86% と前年度の 65%、過去 5 年平均の 83% を上回っている。また、作柄評価は、「良～やや良」の割合が 51% と前年度(71%)に比べ 20 ポイント下回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、19.7 百万トンと、主要輸出国に比べ依然として価格が高く価格競争力が劣ることから、前年度に比べ 4.5% 減少し、1972/73 年度以降最低となる見込み。米国産の輸出価格(FOB)は、6 月の低調な輸出や作付面積の増加により 6 月 6 日時点の 353 ドル/トンから、335 ドル/トン(7 月 7 日時点)に低下した。2023 年 6 月の輸出量は 112.5 百万トン、輸出先国はイエメン(16.0%)、メキシコ(14.1%)、フィリピン(13.2%)の順。

## 小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

| (単位：百万トン)  |         |                  |                       |               |                |
|------------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
| 年 度        | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 (23年6月～24年5月) |               |                |
|            |         |                  | 予測値                   | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 44.8    | 44.9             | 47.3                  | 2.0           | 5.4            |
| 消 費 量      | 29.8    | 30.8             | 30.8                  | 0.6           | 0.1            |
| うち飼料用      | 1.8     | 2.4              | 2.5                   | 0.5           | 4.3            |
| 輸 出 量      | 21.7    | 20.7             | 19.7                  | -             | ▲ 4.5          |
| 輸 入 量      | 2.6     | 3.3              | 3.5                   | ▲ 0.1         | 6.6            |
| 期末在庫量      | 19.0    | 15.8             | 16.1                  | 0.8           | 2.1            |
| 期末在庫率      | 37.0%   | 30.7%            | 31.9%                 | 1.3           | 1.2            |
| (参考)       |         |                  |                       |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 15.03   | 14.36            | 15.27                 | 0.26          | 6.3            |
| 単収(t/ha)   | 2.98    | 3.13             | 3.10                  | 0.08          | ▲ 1.0          |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」  
「World Agricultural Production」(12 July 2023)

## 表：米国産小麦の作付面積

| (面積：百万ヘクタール 対前年度比：%) |           |                               |        |      |
|----------------------|-----------|-------------------------------|--------|------|
|                      | 2022/23年度 | 2023/24年度<br>面積報告<br>(2023.6) | 過去5年平均 |      |
| 冬小麦                  | 13.46     | 14.98                         | 13.06  | 11.2 |
| 春小麦                  | 4.38      | 4.51                          | 4.89   | 2.8  |
| デュラム小麦               | 0.66      | 0.60                          | 0.68   | -9.1 |
| 小麦計                  | 18.50     | 20.08                         | 18.63  | 8.5  |

資料：USDA「Acreage」(2023.6.30)をもとに農林水産省で作成

## 図：米国産小麦の輸出量と輸出先国

| 2023年<br>(2023年6月) |       |       | 2022年<br>(2022年1月～12月) |         |       | 2021年<br>(2021年1月～12月) |         |       |
|--------------------|-------|-------|------------------------|---------|-------|------------------------|---------|-------|
| 国 名                | 輸出量   | シェア   | 国 名                    | 輸出量     | シェア   | 国 名                    | 輸出量     | シェア   |
| イエメン               | 18.0  | 16.0  | メキシコ                   | 376.3   | 19.0  | メキシコ                   | 740.4   | 17.7  |
| メキシコ               | 15.9  | 14.1  | フィリピン                  | 228.4   | 11.5  | フィリピン                  | 505.2   | 12.1  |
| フィリピン              | 14.9  | 13.2  | 日本                     | 212.2   | 10.7  | 日本                     | 435.1   | 10.4  |
| 台湾                 | 12.6  | 11.2  | 韓国                     | 122.1   | 6.2   | 韓国                     | 293.3   | 7.0   |
| 日本                 | 12.1  | 10.8  | ナイジェリア                 | 117.3   | 5.9   | 中国                     | 289.9   | 6.9   |
| 韓国                 | 11.6  | 10.3  | 台湾                     | 82.1    | 4.1   | ナイジェリア                 | 272.0   | 6.5   |
| ブラジル               | 5.7   | 5.1   | イエメン                   | 70.8    | 3.6   | 台湾                     | 178.7   | 4.3   |
| その他                | 21.7  | 19.3  | その他                    | 775.2   | 39.1  | その他                    | 1,476.6 | 35.2  |
| 計                  | 112.5 | 100.0 | 計                      | 1,984.4 | 100.0 | 計                      | 4,191.2 | 100.0 |

資料：USDA「Federal Grain Inspection Service Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 2023/24 年度の生産量は前年度に比べ 4.5%増の 35.3 百万トン

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2023.7.21)によれば、2023/24 年度の小麦全体の生産量は、前月予測から 0.4 百万トン下方修正され 35.3 百万トンの見込み。単収は低下するものの、収穫面積の増加から前年度に比べ 4.5%増加する見込み。

種類別の生産量は、普通小麦は単収が低下するものの収穫面積が増加し 29.6 百万トン(前年度比 4.4%増)、デュラム小麦は収穫面積が低下するものの単収が増加し、5.7 百万トン(同 4.6%増)と、それぞれ前年度より増加する見込み。単収は平原三州の大分部(特に、サスカチュワン州、アルバータ州)で高温、乾燥天候の継続から低下する見通し。

なお、カナダ統計局「Principal field crop areas, June 2023」(2023.6.28)によれば、2023/24 年度の小麦全体の播種面積は、前年度より 6.4%増加し 10.9 百万ヘクタールと、ここ 20 年間で最高となる見込み。種類別の播種面積は、春小麦は 7.88 百万ヘクタールと前年度に比べ 8.0%の増加、デュラム小麦は 2.44 百万ヘクタールと同 0.5%の増加、主にカナダ東部で作付けされる冬小麦は 0.57 百万ヘクタールと 20.1%の増加となる見込み。播種面積の増加の要因は、価格が高く小麦の収益性が高いことや、世界からの堅調な需要があることで、オーツ麦等の作付けからシフトした。

播種は、カナダ西部のサスカチュワン州、マニトバ州の一部で降雨過多により 5 年平均よりわずかに遅れた一方、アルバータ州で気温が上昇し乾燥した天候となり、平年より早く 5 月末にほぼ終了。カナダ西部では、乾燥天候により土壌水分量は不足傾向となっており、生育には降雨が必要とされている。

カナダ各州政府によれば、①最大生産州であるサスカチュワン州では、7 月 10 日時点で、作柄評価を示す「優良～良」の割合は、春小麦が 50%、デュラム小麦が 26%と、それぞれ前年度の 74%、58%を下回った。②マニトバ州では、春小麦は開花を終え、作柄評価は概ね「良～並み」である。③アルバータ州では、7 月 11 日時点で、作柄評価を示す「優良～良」の割合は、春小麦が 46%、デュラム小麦が 34%と、降雨があったものの、それぞれ前年度の 83%、64%を大きく下回っている。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され 24.6 百万トンと、前年度に比べ 0.2%減少の見込み。種類別の輸出量は、普通小麦が、アジア、アフリカからの食用需要や豪州等での生産減、黒海地域からの輸出の不安定さを受け、19.9 百万トンと前年度に比べ 1.0%増加。デュラム小麦は、4.8 百万トンと同 5.0%減少。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

| 年 度   | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24(23年8月～24年7月) |               |                |
|-------|---------|------------------|----------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値、( )はAAFC         | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量   | 22.4    | 33.8             | 35.0 (35.3)          | ▲ 2.0         | 3.5            |
| 消費量   | 10.2    | 10.0             | 9.1 (9.3)            | ▲ 0.5         | ▲ 9.0          |
| うち飼料用 | 5.2     | 4.5              | 4.0 (4.9)            | ▲ 0.5         | ▲ 11.1         |
| 輸 出 量 | 15.1    | 25.5             | 26.5 (24.6)          | ▲ 1.0         | 3.9            |
| 輸 入 量 | 0.6     | 0.6              | 0.6 (0.1)            | －             | 9.1            |
| 期末在庫量 | 3.7     | 2.5              | 2.5 (5.1)            | ▲ 0.5         | －              |
| 期末在庫率 | 14.5%   | 7.2%             | 7.1% (15.0%)         | ▲ 1.1         | ▲ 0.0          |

(参考)  
収穫面積(百万ha) 9.20 10.08 10.60 (10.72) - 5.2  
単収(t/ha) 2.44 3.35 3.30 (3.30) ▲ 0.19 ▲ 1.5  
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2023)  
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(21 July 2023)

図 品種別カナダ産小麦の播種面積の推移

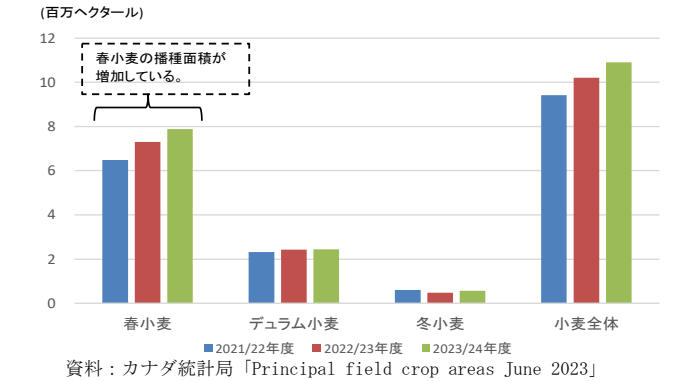


表 カナダ産小麦の輸出量、輸出先国

(輸出量: 万トン、シェア: %)

| 2022/23年度<br>(2023年5月) |       |       | 2022/23年度<br>(2022年8月～2023年5月) |         |       | 2021/22年度<br>(2021年8月～2022年5月) |         |       |
|------------------------|-------|-------|--------------------------------|---------|-------|--------------------------------|---------|-------|
| 国名                     | 輸出量   | シェア   | 国名                             | 輸出量     | シェア   | 国名                             | 輸出量     | シェア   |
| インドネシア                 | 20.6  | 13.2  | 中国                             | 264.8   | 12.6  | 日本                             | 144.5   | 12.4  |
| ペルー                    | 14.3  | 9.1   | インドネシア                         | 175.3   | 8.3   | インドネシア                         | 106.6   | 9.1   |
| ナイジェリア                 | 11.2  | 7.2   | 日本                             | 151.7   | 7.2   | コロンビア                          | 77.2    | 6.6   |
| 日本                     | 10.9  | 7.0   | イタリア                           | 135.3   | 6.4   | ペルー                            | 75.1    | 6.4   |
| バングラデシュ                | 10.4  | 6.6   | ペルー                            | 133.0   | 6.3   | 中国                             | 69.4    | 6.0   |
| モロッコ                   | 10.1  | 6.5   | バングラデシュ                        | 132.9   | 6.3   | 米国                             | 63.5    | 5.4   |
| その他                    | 78.9  | 50.4  | その他                            | 1,111.5 | 52.8  | その他                            | 629.7   | 54.0  |
| 計                      | 156.4 | 100.0 | 計                              | 2,104.5 | 100.0 | 計                              | 1,166.0 | 100.0 |

資料：Canadian Grain Commission のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 >2023/24 年度の生産量は前年度比 26.9%減の 29.0 百万トン

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、29.0 百万トンと前年度に比べ 26.9%減少する見込み。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2023.6.6)によれば、2023/24 年度の実生産量は、収穫面積の減少(前年度比 1.6%減)と単収の低下(同 32.8%減)から 26.2 百万トンと、史上最高となった前年度を 33.9%、過去 5 年平均(28.0 百万トン)を 6.4%それぞれ下回る見込み。

主要生産州では、ウェスタンオーストラリア州(WA 州)の実生産量は、播種面積が前年度から 2 %減少し 4.65 百万ヘクタールとなり、単収も乾燥天候から減少するため、前年度の史上最高の 14.0 百万トンから減少(32%減)するものの、9.5 百万トンと 6 年平均(9.9 百万トン)並みになる見込み。また、ニューサウスウェールズ州(NSW 州)の実生産量は、乾燥天候による単収の低下と播種面積の減少から、前年度の 10.3 百万トンから減少(前年度比 30%減)するものの、7.2 百万トンと 6 年平均(7.3 百万トン)並みの見込み。

豪州全体の小麦の播種面積は、2023/24 年度後半にエルニーニョ現象等が発生し、降水量が冬、春ともに平均を下回る可能性があるため、比較的乾燥に強い大麦へ作付けがシフトすること等により、12.8 百万ヘクタールと前年度から 2 %減少する見込み。なお、播種は 4 月より開始され、6 月には NSW 州北部とクイーンズランド州(QL 州)の一部を除き完了している。

生育状況は、6 月の降雨量で土壌水分が供給されたため、ほとんどの生産地で小麦は順調に定着した。

GIWA(西豪州穀物産業協会)(2023.7.13)によれば、WA 州の播種面積は前月予測(4.63 百万ヘクタール)から上方修正され 4.73 百万ヘクタール。小麦の播種面積は、前年度同時期(4.81 百万ヘクタール)に比べ 1.7%減の見込み。生産量は 9.9 百万トンと前年度(10.2 百万トン)に比べ、2.9%減少する見込み。乾燥傾向がある中、6 月初旬に降雨があったものの、7 月、8 月の降雨が必要とされている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、アジア市場からの堅調な需要から、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、21.5 百万トンとなるものの、前年度に比べ 33.8%減少の見込み。

また、2022/23 年度の実輸出量は、前月予測から 1.5 百万トン上方修正され 32.5 百万トンの見込み。同年度の豪州産小麦は飼料用グレードの実生産割合が増加しており、特に飼料用途の小麦が中国向けに輸出されている。2023 年 5 月の輸出量は 333.0 万トンと前年度同期を 17.0%上回った。輸出先国は、中国(23.9%)、ベトナム(13.7%)、インドネシア(12.3%)の順。

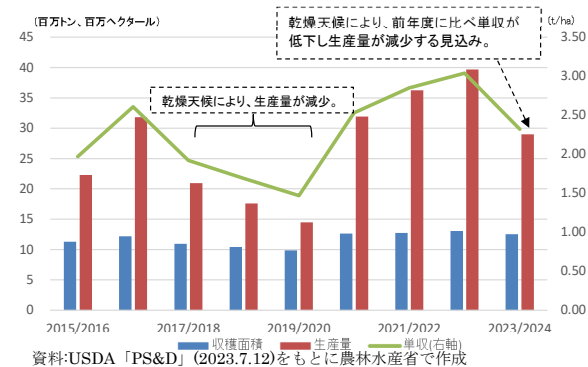
小麦一豪州(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

| 年 度        | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24(23年10月～24年9月) |               |                |  |
|------------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|--|
|            |         |                  | 予測値、( ) はIGC          | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |  |
| 生 産 量      | 36.2    | 39.7             | 29.0 (27.9)           | -             | ▲ 26.9         |  |
| 消 費 量      | 8.5     | 8.0              | 7.7 (8.2)             | ▲ 0.3         | ▲ 3.8          |  |
| うち飼料用      | 5.0     | 4.5              | 4.2 (4.5)             | ▲ 0.3         | ▲ 6.7          |  |
| 輸 出 量      | 27.5    | 32.5             | 21.5 (21.0)           | 0.5           | ▲ 33.8         |  |
| 輸 入 量      | 0.2     | 0.2              | 0.2 (0.3)             | -             | -              |  |
| 期末在庫量      | 3.5     | 2.8              | 2.8 (1.7)             | ▲ 0.5         | -              |  |
| 期末在庫率      | 9.6%    | 7.0%             | 9.7% (6.0%)           | ▲ 1.8         | 2.7            |  |
| (参考)       |         |                  |                       |               |                |  |
| 収穫面積(百万ha) | 12.73   | 13.05            | 12.50 (12.4)          | -             | ▲ 4.2          |  |
| 単収(t/ha)   | 2.85    | 3.04             | 2.32 (2.25)           | -             | ▲ 23.7         |  |

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2023)  
IGC 「Grain Market Report」(29 June 2023)

図：豪州の生産量、面積、単収の推移



図：豪州産小麦の輸出量と輸出先国

| 2023年5月 |       |       | 2023年1月～2023年5月 |         |       | 2022年1月～2022年5月 |         |       |
|---------|-------|-------|-----------------|---------|-------|-----------------|---------|-------|
| 国 名     | 輸出量   | シェア   | 国 名             | 輸出量     | シェア   | 国 名             | 輸出量     | シェア   |
| 中国      | 79.5  | 23.9  | 中国              | 456.6   | 27.8  | 中国              | 261.4   | 20.5  |
| ベトナム    | 45.7  | 13.7  | インドネシア          | 179.3   | 10.9  | インドネシア          | 156.2   | 12.2  |
| インドネシア  | 41.0  | 12.3  | ベトナム            | 161.9   | 9.9   | フィリピン           | 148.3   | 11.6  |
| 韓国      | 37.3  | 11.2  | 韓国              | 147.6   | 9.0   | ベトナム            | 136.7   | 10.7  |
| フィリピン   | 23.4  | 7.0   | タイ              | 131.1   | 8.0   | 韓国              | 87.2    | 6.8   |
| タイ      | 20.0  | 6.0   | フィリピン           | 126.2   | 7.7   | マレーシア           | 51.9    | 4.1   |
| その他     | 86.1  | 25.9  | その他             | 439.8   | 26.8  | その他             | 434.7   | 34.1  |
| 計       | 333.0 | 100.0 | 計               | 1,642.5 | 100.0 | 計               | 1,276.4 | 100.0 |

資料:豪州統計局の資料をもとに農林水産省で作成

## < EU27 > 東欧5か国：ウクライナ産小麦の輸入規制の延長を検討

【生育・生産状況】欧州委員会(2023.6.30)によれば、2023/24年度のEU27の生産量は、前月予測から2.9百万トン下方修正され137.2百万トンとなるものの、前年度に比べ2.4%増加の見込み。そのうち、普通小麦は前月予測から2.7百万トン下方修正され129.9百万トンとなるものの、前年度に比べ2.5%増加。デュラム小麦は前月予測から0.2百万トン下方修正され7.3百万トンとなるものの、同1.8%増加する見込み。種類別では、普通小麦はドイツ等で上方修正されたものの、ポーランド等で下方修正された。デュラム小麦はギリシャでわずかに上方修正されたものの、イタリア等で下方修正された。

なお、フランスアグリメールによれば、フランス産の生育状況の評価を示す「とても良い～良い」の割合は、7月10日時点で、普通小麦は81%と前月の88%より低下したものの、前年度同期68%を上回った。デュラム小麦は68%と前月の82%を下回ったものの、前年度同期55%を上回った。

また、収穫進捗率は、冬小麦が33%と前年度同期の45%を下回ったものの、過去5年平均の26%を上回っており、デュラム小麦は65%と前年度78%を下回ったものの、過去5年平均の54%を上回った。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、小麦や他の飼料用穀物の増産から7.0百万トンと、前年度に比べ41.7%減少の見込み。なお、2022/23年度の輸入量は12.0百万トンと、減産となったとうもろこしの代替として増加。特にウクライナ産が増加。

2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、38.5百万トンと、前年度に比べ13.2%増加する見込み。一方、2022/23年度の輸出量は、前月予測から0.5百万トン下方修正され、34.0百万トンの見込み。なお、フランス産小麦は、干ばつに見舞われたスペイン等への輸出が増加したものの、輸出が好調なロシア産小麦との競合によりEU域外への輸出は減少した。

欧州委員会によれば、2023年4月の輸出量は266.6万トンと前月に比べ増加したものの、5年平均(272.6万トン)を下回っている。輸出先国は、アフリカ、中東諸国が多く、普通小麦はモロッコ(18.2%)、アルジェリア(12.8%)の順で、デュラム小麦はチュニジア(53.7%)、トルコ(15.5%)の順。

ウクライナ産農産物の東欧諸国への過剰流入問題に関し、欧州委員会は、2023年4月28日、ポーランド、スロバキア、ハンガリー、ブルガリア、ルーマニアでのウクライナ産の小麦、とうもろこし、菜種、ひまわり種子のトランジットを除く輸入禁止を決定。その後、2023年9月15日までに規制を段階的に廃止することを決定したものの、延長が検討されている。

## 小麦－EU27（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

| 年 度        | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24(23年7月～24年6月) |               |                |
|------------|---------|------------------|----------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、( )はIGC          | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 138.2   | 134.3            | 138.0 (136.1)        | ▲ 2.5         | 2.7            |
| 消 費 量      | 108.3   | 108.0            | 109.5 (107.5)        | -             | 1.4            |
| うち飼料用      | 45.0    | 44.0             | 45.0 (43.0)          | -             | 2.3            |
| 輸 出 量      | 32.0    | 34.0             | 38.5 (36.2)          | -             | 13.2           |
| 輸 入 量      | 4.6     | 12.0             | 7.0 (5.9)            | -             | ▲ 41.7         |
| 期末在庫量      | 13.3    | 17.7             | 14.7 (16.4)          | ▲ 1.5         | ▲ 17.0         |
| 期末在庫率      | 9.5%    | 12.4%            | 9.9% (11.4%)         | ▲ 1.0         | ▲ 2.5          |
| (参考)       |         |                  |                      |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 24.28   | 24.35            | 24.35 (24.10)        | ▲ 0.08        | -              |
| 単収(t/ha)   | 5.69    | 5.52             | 5.67 (5.65)          | ▲ 0.08        | 2.7            |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2023)  
IGC 「Grain Market Report」(29 June 2023)

## 写真：ドイツ、フランスの小麦の圃場（7月）

ドイツ バイエルン州ヘルガーツハウゼン近郊(2023.7.1)



本圃場では、6月は例年と比較して降雨量が極端に少なく、小麦の生長は良くなく、葉の黄化も進んだ。乾燥と高温の影響で、今年の収穫時期は7月下旬に早まる見込みで、例年と比較して、収量・質ともに低くなると予想されている。

フランス マニー・アン・ヴクサン近郊(2023.7.12)



本圃場では、小麦は順調に生長している。7月8日に雹が降り、本圃場では被害がなかったものの、近隣には被害を受けた農家もある模様。7月27日～31日頃に収穫を予定している。

＜ 中国 ＞ 2023/24 年度の消費量は、飼料用の増加から 2.0 百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月からの変更はなく、史上最高の 140.0 百万トンの見込み。単収と収穫面積の増加から前年度に比べ 1.7%増加した。収穫面積は農薬、肥料代等の生産コスト増も、高価格水準による高い収益性から前年度に比べ増加している。なお、中国の単収は増加傾向にあり、2023/24 年度の単収は 5.93 トン/ヘクタールと約 20 年前の 2000/01 年度 (3.74 トン/ヘクタール)の 1.6 倍に増加している。その要因は、①病害抵抗性や増産性を育種目標とした品種の育成と普及、②生産地域の土壌と気候条件に応じた栽培技術の普及等とみられている。

中国国家気象センター・中国気象農業報道「農業気象月報」(2023.7.5)によれば、6 月 29 日現在、中国全土で冬小麦の収穫はほぼ終了した。なお、5 月下旬に河南省の大部分、陝西省中南部、湖北省で降雨が続き、小麦の一部で穂発芽やカビが発生し小麦の品質が低下するとともに、収穫が遅延した。また、江蘇省の一部では、収穫時の小麦の水分含有量が高くなり、保管状況による品質への影響も懸念されている。一方、春小麦は、主要産地の華北地域や西南地域で開花期から乳熟期を迎えている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、河南省での収穫期終盤の豪雨による飼料用グレード小麦の増加により飼料用等の消費量が増加することから、前月予測に比べ 2.0 百万トン上方修正され 153.0 百万トンと、前年度に比べ 3.4%増加する見込み。

2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく 12.0 百万トンとなるものの、前年度に比べ 11.1%減少する見込み。特に、製粉用小麦の輸入が増加するとみられている。

2022/23 年度の輸入量は、前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 13.5 百万トンとなるものの、1992/93 年度以降で最高となる見込み。中国農業農村部によれば、2023 年 5 月の輸入量は 115.4 万トンで、前月比 31.5%減少し、前年同期比 71.4%増加した。2023 年 1 月から 5 月までの間の輸入量は 718.7 万トンと、前年同時期を 62.5%上回っている。この間の輸入先国のシェアは、豪州が 62.7%、カナダが 17.4%、フランスが 10.8%であり、この 3 か国で 90.9%を占めている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023 年 5 月号」によれば、5 月中旬までは、需給が緩み、また、新穀小麦の流通が開始されることから、小麦価格は下落傾向となった。その後、主要生産地の一部の降雨で新穀小麦の品質が懸念され、小麦価格は上昇に転じているものの、普通品質の小麦価格は前年同月比で 16.1%低下、高品質の小麦価格も同 17.1%低下している。

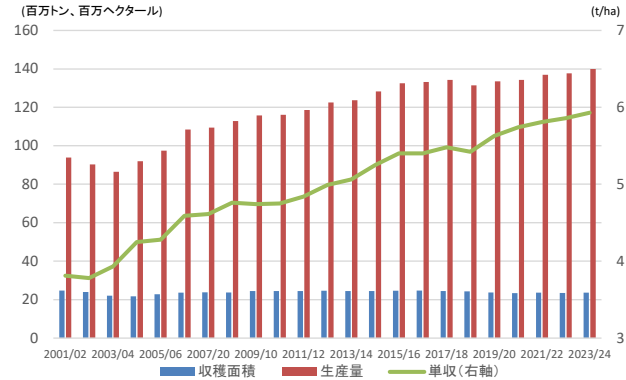
小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

| 年 度        | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24(23年7月～24年6月) |               |                |  |
|------------|---------|------------------|----------------------|---------------|----------------|--|
|            |         |                  | 予測値、( ) はIGC         | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |  |
| 生 産 量      | 137.0   | 137.7            | 140.0 (139.0)        | -             | 1.7            |  |
| 消 費 量      | 148.0   | 148.0            | 153.0 (149.7)        | 2.0           | 3.4            |  |
| うち飼料用      | 35.0    | 33.0             | 36.0 (32.0)          | 2.0           | 9.1            |  |
| 輸 出 量      | 0.9     | 1.0              | 0.9 (1.1)            | -             | ▲ 5.3          |  |
| 輸 入 量      | 9.6     | 13.5             | 12.0 (12.2)          | -             | ▲ 11.1         |  |
| 期末在庫量      | 136.8   | 139.0            | 137.1 (141.4)        | ▲ 2.6         | ▲ 1.4          |  |
| 期末在庫率      | 91.9%   | 93.3%            | 89.1% (93.8%)        | ▲ 2.9         | ▲ 4.2          |  |
| (参考)       |         |                  |                      |               |                |  |
| 収穫面積(百万ha) | 23.57   | 23.52            | 23.60 (23.7)         | -             | 0.3            |  |
| 単収(t/ha)   | 5.81    | 5.86             | 5.93 (5.86)          | -             | 1.2            |  |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2023)  
IGC 「Grain Market Report」(29 June 2023)

図 中国の小麦の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2023.7.12)をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量と輸入先国

(輸入量:万トン、シェア%)

| 2023年5月 |       |       | 2023年1月～2023年5月 |       |       | 2022年1月～2022年5月 |       |       |
|---------|-------|-------|-----------------|-------|-------|-----------------|-------|-------|
| 国 名     | 輸入量   | シェア   | 国 名             | 輸入量   | シェア   | 国 名             | 輸入量   | シェア   |
| 豪州      | 90.7  | 78.6  | 豪州              | 450.5 | 62.7  | 豪州              | 256.8 | 58.1  |
| カナダ     | 15.1  | 13.1  | カナダ             | 125.3 | 17.4  | フランス            | 144.9 | 32.8  |
| カザフスタン  | 7.4   | 6.4   | フランス            | 77.6  | 10.8  | カナダ             | 36.9  | 8.3   |
| ロシア     | 1.8   | 1.5   | 米国              | 47.5  | 6.6   | カザフスタン          | 1.5   | 0.3   |
| その他     | 0.5   | 0.4   | その他             | 17.8  | 2.5   | その他             | 2.1   | 0.5   |
| 計       | 115.4 | 100.0 | 計               | 718.7 | 100.0 | 計               | 442.3 | 100.0 |

資料：中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 2023/24 年度の輸出量は史上最高の 47.5 百万トン

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量(クリミア地域分を含まず)は、前月予測からの変更はなく、85.0 百万トンの見込み。播種期の降雨過多による収穫面積の減少と単収の低下から、生産量は史上最高であった前年度(92.0 百万トン)に比べ 7.6%減少するものの、過去 5 年平均(79.6 百万トン)を 6.8%上回る見込み。種類別の生産量は、冬小麦は 61.5 百万トンと前年度に比べ 9.6%減少し、春小麦も 23.5 百万トンと同 2.1%減少する見込み。

ロシア気象センターによれば、生育状況は、①ヨーロッパ部北部の中央連邦管区等では、冬小麦が開花期から黄熟期、春小麦が出穂期となるも、一部地域で降雨不足となり、春小麦に葉枯れの影響が出ている。②同南部の南連邦管区等では、冬小麦が黄熟期から完熟期に入り、一部で収穫が開始された。春小麦は概ね乳熟期に入った。③アジア部のウラル連邦管区等では、冬小麦が出穂期から開花期、春小麦が莖たち期を迎え、6 月下旬に降雨があったものの、南部で土壌水分量が不足している。ロシア農業省によれば、7 月 11 日時点までの収穫量は、降雨の影響を受け前年度同期比 41.8%減少の 6.3 百万トン。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 47.5 百万トンと、史上最高であった前年度から更に 4.4%増加の見込み。増加の要因は、①2023/24 年度の実産量は減少するものの、期首在庫と合わせた供給量が 2 年連続で 100 百万トンを超え輸出余力が十分ある。②輸出税の算出方法の改定により世界市場での輸出競争力が高まった。③ロシアの輸出市場であるエジプト、イラン、アルジェリア等からの輸入需要が引き続き堅調であることとみられる。また、2022/23 年度の輸出量は、輸出余力が十分あり価格競争力が高いことから、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 45.5 百万トンと、前年度に比べ 37.9%増加の見込み。

USDA によれば、7 月 7 日時点の輸出価格(FOB)は、好調な輸出等から、6 月 6 日時点の 227 ドル/トンから 235 ドル/トンに上昇したものの、主要小麦輸出国中で最も安価である。また、2023 年 6 月の輸出量は、前月に比べ 13.5%減少するものの、同月の過去 3 年平均(135.3 万トン)を上回る 366.2 万トンと水準は高い。輸出先国は、エジプト(19.4%)、トルコ(17.3%)、バングラディシュ(4.5%)の順。

2022 年 7 月 22 日に国連、ウクライナ、ロシア、トルコの 4 者により合意した「黒海穀物イニシアチブ」は、2023 年 7 月 17 日に期限を迎えたが、ロシアが離脱を表明し、履行が停止された。ロシアは、国連と結んだメモランダムにおける輸出への障害の除去が履行され次第、復帰するとした。

小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

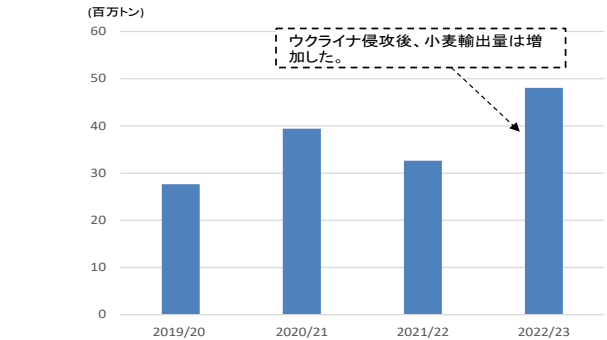
| 年 度   | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24(23年7月～24年6月) |               |                |
|-------|---------|------------------|----------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値、( )はIGC          | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 75.2    | 92.0             | 85.0 (83.6)          | -             | ▲ 7.6          |
| 消 費 量 | 41.8    | 42.3             | 42.0 (45.1)          | -             | ▲ 0.6          |
| うち飼料用 | 18.5    | 19.0             | 19.0 (20.0)          | -             | -              |
| 輸 出 量 | 33.0    | 45.5             | 47.5 (44.7)          | 1.0           | 4.4            |
| 輸 入 量 | 0.3     | 0.3              | 0.3 (0.2)            | -             | -              |
| 期末在庫量 | 12.1    | 16.6             | 12.4 (10.6)          | ▲ 2.0         | ▲ 25.2         |
| 期末在庫率 | 16.2%   | 19.0%            | 13.9% (11.8%)        | ▲ 2.4         | ▲ 5.1          |

(参考)

|            |       |       |              |   |       |
|------------|-------|-------|--------------|---|-------|
| 収穫面積(百万ha) | 27.63 | 29.00 | 27.50 (27.8) | - | ▲ 5.2 |
| 単収(t/ha)   | 2.72  | 3.17  | 3.09 (3.01)  | - | ▲ 2.5 |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2023)  
IGC 「Grain Market Report」(29 June 2023)

図：ロシアの小麦輸出量の推移(2019/20～2022/23)



資料：USDA 「PS&D」(2023.7.12)のデータをもとに農林水産省で作成

表：ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

| 2022/23年度<br>(2023年6月) |       |       | 2022/23年度<br>(2022年7月～2023年6月) |         |       | 2021/22年度<br>(2021年7月～2022年6月) |         |       |
|------------------------|-------|-------|--------------------------------|---------|-------|--------------------------------|---------|-------|
| 国 名                    | 輸出量   | シェア   | 国 名                            | 輸出量     | シェア   | 国 名                            | 輸出量     | シェア   |
| エジプト                   | 71.1  | 19.4  | エジプト                           | 836.8   | 17.4  | トルコ                            | 712.0   | 21.8  |
| トルコ                    | 63.4  | 17.3  | トルコ                            | 682.1   | 14.2  | イラン                            | 586.7   | 18.0  |
| バングラディシュ               | 16.7  | 4.6   | バングラディシュ                       | 199.2   | 4.1   | エジプト                           | 504.0   | 15.4  |
| カザフスタン                 | 15.2  | 4.2   | パキスタン                          | 155.2   | 3.2   | カザフスタン                         | 217.3   | 6.7   |
| ブラジル                   | 14.7  | 4.0   | イラン                            | 149.6   | 3.1   | サウジアラビア                        | 97.3    | 3.0   |
| サウジアラビア                | 13.3  | 3.6   | アゼルバイジャン                       | 136.9   | 2.8   | アゼルバイジャン                       | 95.9    | 2.9   |
| UAE                    | 12.6  | 3.4   | カザフスタン                         | 125.5   | 2.6   | スーダン                           | 71.2    | 2.2   |
| その他                    | 159.2 | 43.5  | その他                            | 2,521.5 | 52.5  | その他                            | 979.4   | 30.0  |
| 計                      | 366.2 | 100.0 | 計                              | 4,806.8 | 100.0 | 計                              | 3,263.8 | 100.0 |

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2023/24 年度の輸出量は 10.5 百万トンと前年度比 37.5%減少

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、前月予測からの変更はなく17.5百万トンと、ロシアによる侵攻の影響を受け2013/14年度以降で最低となる見込み。また、前年度(21.5百万トン)に比べ18.6%減、過去5年平均(26.8百万トン)に比べ34.8%減の見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、7月13日現在、冬小麦は0.21百万ヘクタール(前年度0.59百万ヘクタール)での収穫が終了し、前年度同期に比べ54.1%少ない0.8百万トンの収穫に留まっている。

なお、ウクライナ穀物協会の試算によれば、7月5日時点で、2023/24年度の前年度(20.2百万トン)から11.4%減少の17.9百万トンの見込み。この生産量は国内需要を満たすには十分に食料安全保障上の問題はないが、輸出余力が低下するため、輸出量は15.0百万トンに留まる見込み。

【貿易状況・その他】USDA 7月予測(2023.7.12)によれば、2023/24年度の輸出量(「黒海穀物イニシアチブ」と陸路、EUの港湾を利用した「連帯レーン」)は、前月予測からの変更はなく10.5百万トン。また、前年度に比べると、生産減による輸出余力の低下、ロシアの侵攻による港湾の閉鎖、今後の黒海穀物イニシアチブの先行きの不透明性から、37.5%減少する見込み。また、2022/23年度の輸出量は、前月予測から0.8百万トン上方修正され16.8百万トンと、2021/22 年度に比べ10.6%の減少に留まった。

ウクライナ政府等によれば、2022/23年度の輸出量は1,690.0万トン(海上輸送、陸路等での全ての輸出が含まれる)。また、輸出先国は、トルコ(21.7%)、ルーマニア(15.7%)、スペイン(15.1%)の順。USDAによれば、ロシアのウクライナ侵攻中の輸出先は、輸出の容易さや、干ばつによるEU諸国の一部の需要により、侵攻前のアジア、北アフリカから欧州向けに大きくシフトした。また、「国連共同調整センター」によれば、合意に基づく6月の輸出量は48.5万トンで、前月に比べ、35.5%増加した(2022年8月からの月平均は80.7万トン)。なお、輸入関税を賦課されたトルコ向けは5月には2.6万トンに減少したものの、6月は9.5万トンに増加した(関税賦課前のトルコ向け月平均15.8万トン)。また、2022年8月から2023年6月までの黒海港湾からの小麦輸出量は887.2万トンで、輸出先国は、スペイン(25.9%)、トルコ(17.3%)、バングラディシュ(12.0%)の順。

なお、国連、ウクライナ、ロシア、トルコの4者による「黒海穀物イニシアチブ」は、2023年7月17日にロシアが離脱を表明し、履行が停止された。また、ウクライナ産農産物の東欧諸国への過剰流入による東欧5か国のトランジットを除く輸入禁止は、期限が9月15日から延長される可能性がある。

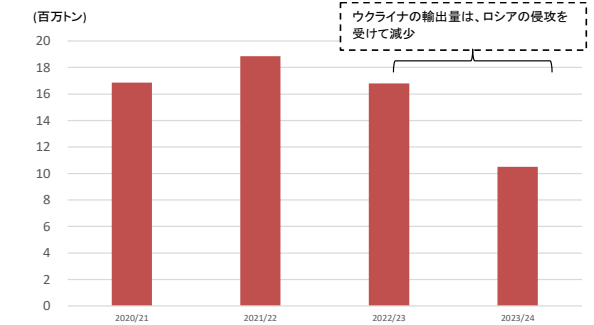
小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

(単位:百万トン)

| 年 度        | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24(23年7月～24年6月) |               |                |
|------------|---------|------------------|----------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、( )はIGC          | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 33.0    | 21.5             | 17.5 (22.5)          | -             | ▲ 18.6         |
| 消 費 量      | 10.5    | 8.4              | 7.1 (11.9)           | -             | ▲ 15.5         |
| うち飼料用      | 4.5     | 3.4              | 2.5 (2.7)            | -             | ▲ 26.5         |
| 輸 出 量      | 18.8    | 16.8             | 10.5 (11.5)          | -             | ▲ 37.5         |
| 輸 入 量      | 0.1     | 0.1              | 0.1 (0.1)            | -             | -              |
| 期末在庫量      | 5.3     | 1.6              | 1.6 (2.0)            | ▲ 0.1         | ▲ 2.5          |
| 期末在庫率      | 18.0%   | 6.5%             | 9.0% (8.4%)          | ▲ 0.6         | 2.6            |
| (参考)       |         |                  |                      |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 7.41    | 5.60             | 4.30 (5.7)           | -             | ▲ 23.2         |
| 単収(t/ha)   | 4.45    | 3.84             | 4.07 (3.57)          | -             | 6.0            |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2023)  
IGC 「Grain Market Report」(29 June 2023)

図: ウクライナ産小麦の生産量、輸入量の推移



資料: USDA「PS&D」(2023.7.12))をもとに農林水産省で作成

表: ウクライナ産小麦の輸出量、輸出先国

(輸出量:万トン、シェア:%)

| 2022/23年度<br>(2023年6月) |       |       | 2022/23年度<br>(2022年7月～2023年6月) |         |       | 2021/22年度<br>(2021年7月～2022年2月※) |         |       |
|------------------------|-------|-------|--------------------------------|---------|-------|---------------------------------|---------|-------|
| 国 名                    | 輸出量   | シェア   | 国 名                            | 輸出量     | シェア   | 国 名                             | 輸出量     | シェア   |
| トルコ                    | 32.6  | 23.5  | トルコ                            | 367.1   | 21.7  | エジプト                            | 273.8   | 15.1  |
| エジプト                   | 23.8  | 17.2  | ルーマニア                          | 264.6   | 15.7  | インドネシア                          | 265.5   | 14.7  |
| スペイン                   | 21.2  | 15.3  | スペイン                           | 255.7   | 15.1  | トルコ                             | 178.7   | 9.9   |
| ルーマニア                  | 15.6  | 11.3  | バングラディシュ                       | 108.7   | 6.4   | パキスタン                           | 146.9   | 8.1   |
| バングラディシュ               | 10.4  | 7.5   | ポーランド                          | 87.6    | 5.2   | サウジアラビア                         | 75.1    | 4.1   |
| インドネシア                 | 7.3   | 5.3   | エジプト                           | 85.6    | 5.1   | イエメン                            | 64.7    | 3.6   |
| レバノン                   | 4.6   | 3.3   | イタリア                           | 59.4    | 3.5   | バングラディシュ                        | 63.2    | 3.5   |
| その他                    | 23.0  | 16.6  | その他                            | 461.3   | 27.3  | その他                             | 743.4   | 41.0  |
| 計                      | 138.5 | 100.0 | 計                              | 1,690.0 | 100.0 | 計                               | 1,811.3 | 100.0 |

資料: 現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成  
※2022年3月から2022年6月までの輸出データはロシアのウクライナ侵攻により不明

## 2 とうもろこし

### (1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2023/24 年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・EU で下方修正されたものの、米国、カナダ、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

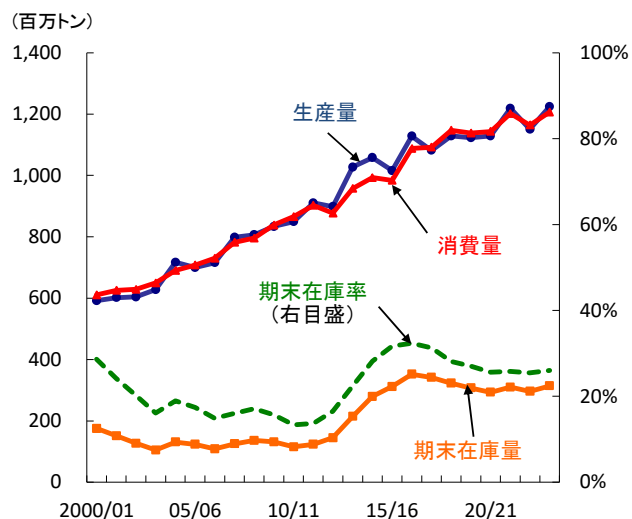
**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・カナダ、EU で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ウクライナで上方修正され、前月から上方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑



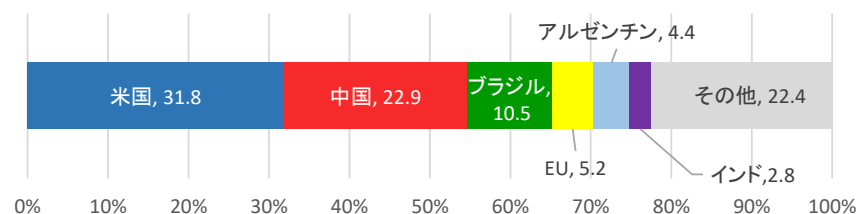
## ◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

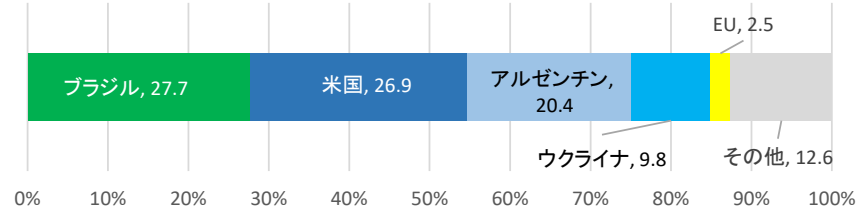
| 年 度   | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 |               |                |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測から<br>の変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量   | 1,218.7 | 1,150.7          | 1,224.5 | 1.7           | 6.4            |
| 消費量   | 1,201.9 | 1,164.3          | 1,206.7 | 0.3           | 3.6            |
| うち飼料用 | 745.9   | 732.4            | 762.1   | 1.3           | 4.0            |
| 輸出量   | 206.5   | 176.6            | 198.3   | 0.5           | 12.3           |
| 輸入量   | 184.5   | 175.1            | 188.4   | 1.4           | 7.6            |
| 期末在庫量 | 309.9   | 296.3            | 314.1   | 0.1           | 6.0            |
| 期末在庫率 | 25.8%   | 25.4%            | 26.0%   | 0.0           | 0.6            |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 July 2023)

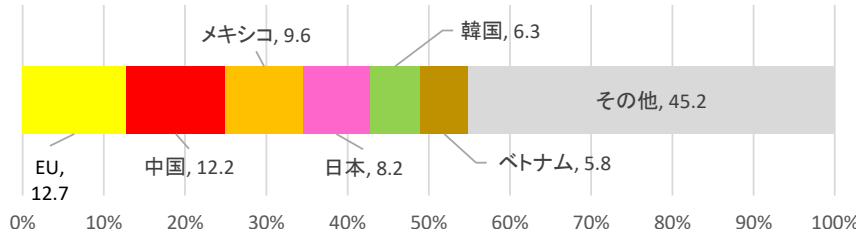
### ○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,224.5 百万トン) (単位：%)



### ○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの輸出量(198.3 百万トン) (単位：%)



### ○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの輸入量(188.4 百万トン) (単位：%)



## （２）国別のとうもろこしの需給動向

### ＜ 米国 ＞ 作付面積の増加により、生産量は 1.4 百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、作付面積報告「Acreage」（2023.6.30）において作付面積が増加したことを受け前月予測から 1.4 百万トン上方修正され、前年度より 11.6%増の 389.2 百万トンと史上最高の見通し。作付けが大豆からとうもろこしへシフトしたことが主な要因とみられる。また、単収は、7 月に降雨があったものの、6 月の高温乾燥を受けて前月予測から下方修正された。

USDA「Crop Progress」（2023.7.17）によれば、7 月 16 日現在で主要 18 州におけるシルキング進捗率は 47%で、前年同時期（34%）、過去 5 年平均（43%）をいずれも上回っている。作柄評価が「良～やや良」の比率は 57%であり、7 月上旬に降雨があり前週（55%）から引き上げられたものの、前年同時期（64%）を下回っている。現在受粉期を迎えているが、高温乾燥による影響への注意が必要。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用、エタノール用等の需要の増加により、前年度に比べ 2.5%増の 314.6 百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴う国際的なとうもろこし価格の低下を受けた輸出の回復期待から、前年度より 27.3%増の 53.3 百万トンの見込み。2023/24 年度の世界最大の輸入国になると見込まれる中国への輸出をめぐり、ブラジル産等との輸出競争が激化する見通し。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2023.7.12）によれば、本年 7 月の米国産の輸出価格は、作付面積報告での面積が予想を上回ったことや、中西部における 7 月上旬の降雨により、前月から低下した。また、2023 年輸出量（1 月 1 日～6 月 30 日）は 23.8 百万トンで、内訳はメキシコ（7.7 百万トン）、日本（5.1 百万トン）、中国（3.8 百万トン）の順。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、2023/24 年の生産量が上方修正されたため、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、前年度より 61.4%増の 57.5 百万トンの見込み。期末在庫率は 15.6%で、前年度より上昇し、2018/19 年度（15.5%）以来の高水準となる見込み。

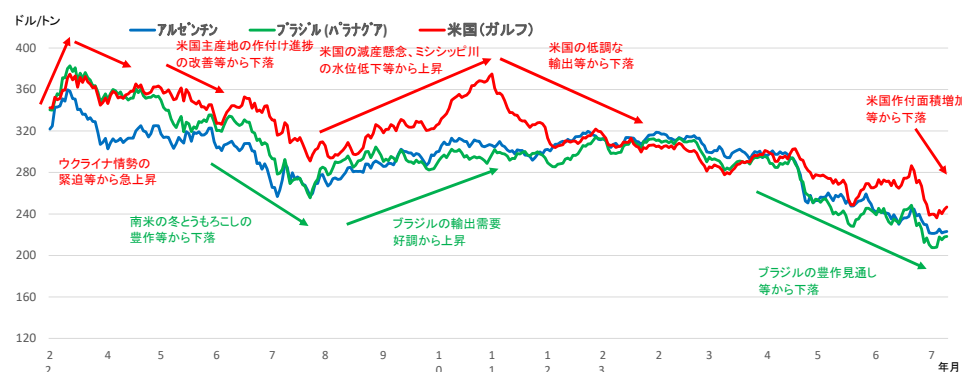
## とうもろこし－米国

（単位：百万トン）

| 年 度        | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 (23年9月～24年8月) |               |                |
|------------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値                   | 前月予測から<br>の変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 382.9   | 348.8            | 389.2                 | 1.4           | 11.6           |
| 消 費 量      | 317.1   | 306.9            | 314.6                 | —             | 2.5            |
| うち飼料用      | 145.3   | 137.8            | 143.5                 | —             | 4.2            |
| エタノール用等    | 135.3   | 132.7            | 134.6                 | —             | 1.4            |
| 輸 出 量      | 62.8    | 41.9             | 53.3                  | —             | 27.3           |
| 輸 入 量      | 0.6     | 0.6              | 0.6                   | —             | —              |
| 期末在庫量      | 35.0    | 35.6             | 57.5                  | 0.1           | 61.4           |
| 期末在庫率      | 9.2%    | 10.2%            | 15.6%                 | 0.0           | 5.4            |
| (参考)       |         |                  |                       |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 34.53   | 32.05            | 34.93                 | 0.90          | 9.0            |
| 単収(t/ha)   | 11.09   | 10.88            | 11.14                 | ▲ 0.25        | 2.4            |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」（12 July 2023）

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

## < ブラジル > 2022/23 年度の冬とうもろこしの収穫に遅れ

【生育・生産状況】USDAによれば、本年9月以降に作付けが開始される2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.0%減の129.0百万トンの見通し。

ブラジル食料供給公社（CONAB）月例報告（2023.7.13）によれば、収穫終盤の2022/23年度の夏とうもろこしの生産量は、前年度比9.3%増の27.4百万トンの見込み。大豆収穫後の2月以降に作付けされ、収穫期を迎えている冬とうもろこしの生産量は、前年度比14.0%増の100.4百万トンの見込み。夏作・冬作の合計では前年度比12.9%増の127.8百万トンで史上最高の見込み。（P.23 大豆－ブラジルのクロップカレンダー参照）。

USDAによれば、2022/23年度の夏とうもろこしの収穫進捗率は95%であり、収穫が完了していた前年度同時期より遅れているものの、収穫作業は終盤を迎えている。

冬とうもろこしについては、USDAによれば、主要生産州であるマツト・グロッソ州、パラナ州では5月下旬から6月にかけて降雨に恵まれ、作柄は良い。他方で、7月14日現在、マツト・グロッソ州の収穫進捗率は68%と、前年度同期（85%）を下回っている。現地情報によると、降雨後に粒が完全に乾燥するのを待つ必要があり、収穫進捗率が低くなっている。

【需要状況】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、加工用、飼料用の需要増加等から、前年度より3.4%増の76.5百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、史上最高となった前年度より減少するものの、引き続き高水準の生産量と競争力のある安価な輸出価格から、前年度より1.8%減の55.0百万トンとなり、2年連続で世界最大の輸出国となる見込み（右図参照）。米国産は生産量の15%程度が輸出向けで大半は国内市場に振り向けられる一方、ブラジル産は40%程度が輸出向けとなり、潤沢な輸出余力により輸出競争力があることが要因とされている。

ブラジル貿易統計によれば、2023年1～6月の輸出量は11.6百万トンで、前年度比84%増。内訳は、日本（1.9百万トン）、中国（1.3百万トン）、韓国（1.2百万トン）の順。前年11月末以降開始された中国向け輸出は、大豆の輸出が一巡し、輸送や港湾の輸出キャパシティに余裕が出てくる本年後半以降、冬とうもろこしの収穫を受け本格化の見通し。

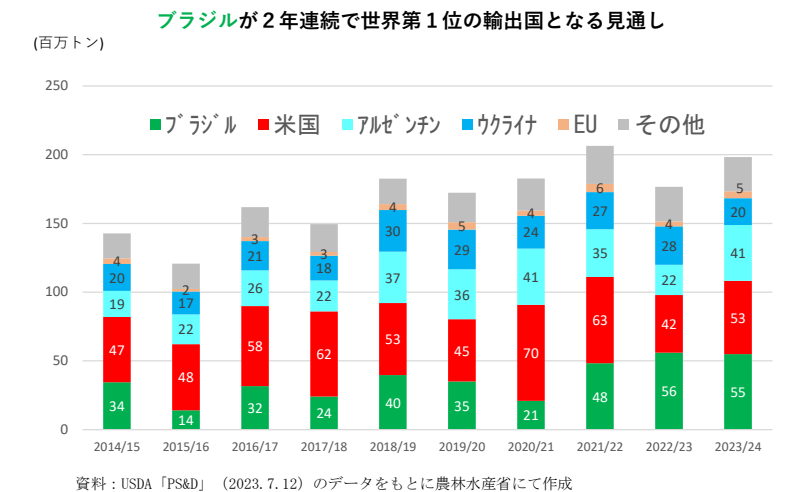
## とうもろこし－ブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約8割、夏とうもろこしは約2割）

| 年 度        | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24（24年3月～25年2月） |               |                |
|------------|---------|------------------|----------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、( )はIGC          | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 116.0   | 133.0            | 129.0 (130.2)        | －             | ▲ 3.0          |
| 消 費 量      | 70.5    | 74.0             | 76.5 (79.2)          | －             | 3.4            |
| うち飼料用      | 59.5    | 61.5             | 62.5 (54.3)          | －             | 1.6            |
| 輸 出 量      | 48.3    | 56.0             | 55.0 (51.0)          | －             | ▲ 1.8          |
| 輸 入 量      | 2.6     | 1.0              | 1.2 (0.5)            | －             | 20.0           |
| 期末在庫量      | 4.0     | 8.0              | 6.7 (10.6)           | －             | ▲ 16.3         |
| 期末在庫率      | 3.3%    | 6.1%             | 5.1% (8.1%)          | －             | ▲ 1.1          |
| (参考)       |         |                  |                      |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 21.80   | 22.90            | 22.90 (22.30)        | －             | －              |
| 単収(t/ha)   | 5.32    | 5.91             | 5.63 (5.84)          | －             | ▲ 4.7          |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2023)  
IGC「Grain Market Report」(29 June 2023)

## 図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



## < アルゼンチン > 2023/24 年度の生産量は、前年度から回復する見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 9 月以降作付けが開始される 2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥により生産量が激減した前年度から大きく回復する見通しから、58.8%増の 54.0 百万トンで史上最高となる見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2023.7.20）によれば、2022/23 年度の収穫進捗率は 66.1%と例年より遅れている。生産量は、ブエノスアイレス州等主産地で長引く乾燥の影響で 34.0 百万トンとなり、2021/22 年度（52.0 百万トン）を 35%下回る見込み。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い需給が緩和し、飼料用需要が回復することから、前年度より 12.5%増の 13.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥により減産した前年度から生産量が大きく回復し、輸出量も回復する見通しから、前年度より 84.1%増の 40.5 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2023 年 1～5 月の輸出量は 8.2 百万トンで、2022/23 年度産が減産となった影響もあり、前年度同期比（14.8 百万トン）で 45%減。輸出先の内訳は、アルジェリア（103.0 万トン）、マレーシア（93.3 万トン）、ペルー（91.1 万トン）の順。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、継続している。2021 年 12 月 17 日、アルゼンチン農牧水産大臣は、とうもろこしと小麦の輸出に関し、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、輸出上限数量を設定することを表明。2023 年 7 月中旬現在、とうもろこしの輸出上限数量は 2021/22 年度 36 百万トン、2022/23 年度 20 百万トンに設定されている。

なお、アルゼンチン政府は、今般の干ばつ対策として、農業関係者に対し、融資や減税、割引手形を発行するなどの救済施策を公表した。4 月 10 日には、各種税の支払い猶予措置などの救済施策を公表した。

## とうもろこしーアルゼンチン

| 年 度        | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 (24年3月～25年2月) |               |                |  |
|------------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|--|
|            |         |                  | 予測値、( ) は IGC         | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |  |
| 生 産 量      | 49.5    | 34.0             | 54.0 (61.0)           | -             | 58.8           |  |
| 消 費 量      | 14.5    | 12.0             | 13.5 (20.4)           | -             | 12.5           |  |
| うち飼料用      | 10.5    | 8.0              | 9.3 (15.5)            | -             | 16.3           |  |
| 輸 出 量      | 34.7    | 22.0             | 40.5 (40.9)           | -             | 84.1           |  |
| 輸 入 量      | 0.0     | 0.0              | 0.0 (0.4)             | -             | -              |  |
| 期末在庫量      | 1.5     | 1.5              | 1.5 (4.8)             | -             | -              |  |
| 期末在庫率      | 3.0%    | 4.4%             | 2.8% (7.8%)           | -             | ▲ 1.6          |  |
| (参考)       |         |                  |                       |               |                |  |
| 収穫面積(百万ha) | 7.10    | 6.70             | 7.00 (8.20)           | -             | 4.5            |  |
| 単収(t/ha)   | 6.97    | 5.07             | 7.71 (7.44)           | -             | 52.1           |  |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2023)  
IGC「Grain Market Report」(29 June 2023)

## 写真：北部サンタフェ州の遅植えとうもろこしの圃場風景 (7月2日撮影)

本圃場では成熟期を迎えており、予想単収は 6.5 トン/ヘクタールの見込み。



## < 中国 > 2023/24 年度の生産量・消費量は史上最高、輸入量増加の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、大豆の増産政策により作付けがとうもろこしから大豆にシフトし作付面積がわずかに減少するものの、主産地における単収の増加を受け、前年度より 1.0%増の 280.0 百万トンで史上最高の見込み。

春とうもろこしは、6 月上旬現在、主産地の黒竜江省等で三葉期から節間伸長期を迎えている。降雨は当初少なかったが、6 月から 7 月にかけての降雨と 6 月中旬の生育に適した気温により、平年と比べ概ね順調に生育しているとみられる。

【需要状況】USDAによれば、2023/24 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、国際的なとうもろこし価格の低下と国内の経済成長を背景とした飼料用需要の増加から、前年度より 1.7%増の 304.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24 年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内の飼料用需要の増加を背景として、国際価格が国内価格を下回っていることを受け、特に、前年末から開始されたブラジルからの輸入が増加すると予想されていることもあり、前年度より 27.8%増の 23.0 百万トンの見込み。

農業農村部によれば、2023 年 1 月～5 月計の実輸入量は、前年同期より 10.6%減の 1,018 万 6 千トン。内訳は、ウクライナ (376.8 万トン)、米国 (346.7 万トン)、ブラジル (221.5 万トン) の順。2023 年 4 月以降、米国産の実輸入量が前年同月より大きく減少しており、背景として、米国産が他国産に比べて割高であることから輸入を取り止め、安価なブラジル産とうもろこしや豪州産小麦を飼料向けに代替する動きがあるとみられる。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023 年 5 月号」によると、5 月の国内価格は、養豚業者の経営マージンの悪化等から買い付けに消極的になったほか、華北地区で小麦の備蓄スペース確保のために売りに出されたことにより、2,720 元/トンと前月 (2,880 元/トン) から下落した。また、5 月の輸入価格は、2,500 元/トンと前月 (2,700 元/トン) から下落した。2022 年 12 月以降、国内価格が国際価格より高い状況が続いている。

## とうもろこし—中国

(単位：百万トン)

| 年 度        | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 (23年10月～24年9月) |         |               |                |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、( ) は IGC          |         | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生産量        | 272.6   | 277.2            | 280.0                  | (279.4) | -             | 1.0            |
| 消費量        | 291.0   | 299.0            | 304.0                  | (305.5) | -             | 1.7            |
| うち飼料用      | 209.0   | 218.0            | 223.0                  | (205.0) | -             | 2.3            |
| 輸 出 量      | 0.0     | 0.0              | 0.0                    | (0.1)   | -             | -              |
| 輸 入 量      | 21.9    | 18.0             | 23.0                   | (20.0)  | -             | 27.8           |
| 期末在庫量      | 209.1   | 205.3            | 204.3                  | (169.9) | -             | ▲ 0.5          |
| 期末在庫率      | 71.9%   | 68.7%            | 67.2%                  | (55.6%) | -             | ▲ 1.5          |
| (参考)       |         |                  |                        |         |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 43.32   | 43.07            | 43.00                  | (43.00) | -             | ▲ 0.2          |
| 単収(t/ha)   | 6.29    | 6.44             | 6.51                   | (6.50)  | -             | 1.1            |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2023)  
IGC「Grain Market Report」(29 June 2023)

## 表：中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)

| 2023年5月 |       |      | 2023年1月～2023年5月 |        |      | 2022年1月～2022年5月 |        |      |
|---------|-------|------|-----------------|--------|------|-----------------|--------|------|
| 国名      | 輸入量   | シェア  | 国名              | 輸入量    | シェア  | 国名              | 輸入量    | シェア  |
| ウクライナ   | 86.6  | 52.1 | ウクライナ           | 376.8  | 37.0 | 米国              | 637.0  | 55.9 |
| 米国      | 56.8  | 34.2 | 米国              | 346.7  | 34.0 | ウクライナ           | 482.4  | 42.4 |
| 南アフリカ   | 10.8  | 6.5  | ブラジル            | 221.5  | 21.7 | ブルガリア           | 8.6    | 0.8  |
| ブルガリア   | 9.8   | 5.9  | ブルガリア           | 24.5   | 2.4  | ミャンマー           | 5.3    | 0.5  |
| ロシア     | 1.6   | 1.0  | ロシア             | 19.9   | 2.0  | ロシア             | 2.7    | 0.2  |
| ミャンマー   | 0.6   | 0.3  | ミャンマー           | 17.1   | 1.7  | ラオス             | 2.3    | 0.2  |
| その他     | 0.1   | 0.0  | その他             | 1.2    | 1.1  | その他             | 0.2    | 0.0  |
| 計       | 166.3 | 100  | 計               | 1018.6 | 100  | 計               | 1138.8 | 100  |

資料：中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成

## < ウクライナ > 2023/24 年度の生産量は、侵攻前の 2021/22 年度より 40.6%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実生産量は、ロシアによる侵攻の影響で収穫面積及び単収いずれも減少することから、前年度より 7.4%減、侵攻前の 2021/22 年度より 40.6%減の 25.0 百万トンと、2012 年以来最低の水準となる見込み。なお、ウクライナ政府発表の作付け進捗データに基づき収穫面積が 0.1 百万ヘクタール上方修正され 3.9 百万ヘクタールとなったことから、生産量は前月予測から 0.5 百万トン上方修正された。

ウクライナ農業政策食料省によれば、6 月 22 日時点での 2023/24 年度の播種済面積は前年度より 12.9%減の 4.04 百万ヘクタールで、播種は完了。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 5.8%増の 5.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、生産量の上方修正を受けて前月予測から 0.5 百万トン上方修正されたものの、供給量の減少及び主要輸出先である EU での増産による輸入需要の減少の影響を受け、前年度より 30.4%減の 19.5 百万トンの見込み。

ウクライナ政府等によれば、2022 年 10 月から 2023 年 6 月までの間の輸出量は 2,444 万トン（海上輸送、陸路等での全ての輸出が含まれる）。輸出先国は、中国（547 万トン）、ルーマニア（378 万トン）、スペイン（274 万トン）、エジプト（185 万トン）、イタリア（172 万トン）の順。

黒海穀物イニシアチブ「国連共同調整センター」によれば、輸出が再開された 2022 年 8 月 1 日から 2023 年 6 月 30 日までの間の黒海港湾からのとうもろこし輸出量は 1,672 万トン。主な輸出先は、中国（540 万トン）、スペイン（328 万トン）、イタリア（145 万トン）の順。

なお、国連、ウクライナ、ロシア、トルコの 4 者による黒海穀物イニシアチブは、2023 年 7 月 17 日、ロシアが離脱を表明し履行が停止された。

なお、ウクライナ産農産物の東欧諸国への過剰流入問題に関し、欧州委員会は、2023 年 4 月 28 日、ポーランド、スロバキア、ブルガリア、ルーマニアでのウクライナ産の小麦、とうもろこし、菜種、ひまわり種子の輸入の禁止（トランジットを除く）を決定。2023 年 9 月 15 日までに段階的に規制を廃止することを決定されたものの、延長が検討されている。

## とうもろこしーウクライナ

（単位：百万トン）

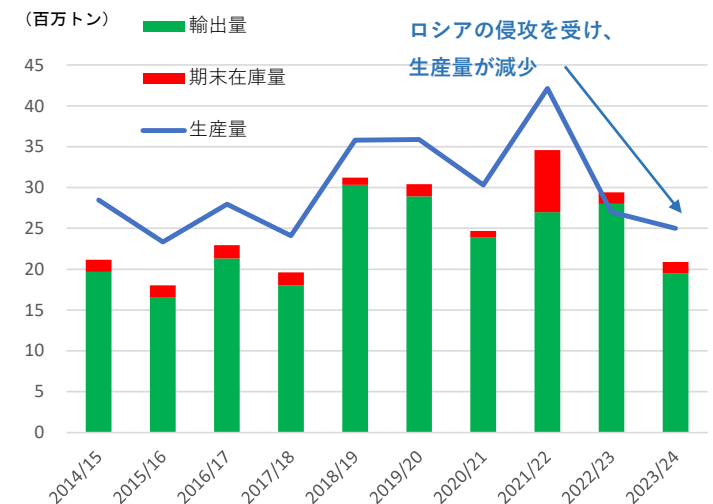
| 年 度   | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 (23年10月～24年9月) |               |                |
|-------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値、( ) は IGC          | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 42.1    | 27.0             | 25.0 (24.0)            | 0.5           | ▲ 7.4          |
| 消 費 量 | 8.4     | 5.2              | 5.5 (6.3)              | -             | 5.8            |
| うち飼料用 | 7.2     | 4.0              | 4.5 (4.5)              | -             | 12.5           |
| 輸 出 量 | 27.0    | 28.0             | 19.5 (18.0)            | 0.5           | ▲ 30.4         |
| 輸 入 量 | 0.0     | 0.0              | 0.0 (0.0)              | -             | -              |
| 期末在庫量 | 7.6     | 1.4              | 1.4 (1.0)              | -             | -              |
| 期末在庫率 | 21.5%   | 4.2%             | 5.6% (4.3%)            | ▲ 0.1         | 1.4            |

(参考)

|            |      |      |             |        |       |
|------------|------|------|-------------|--------|-------|
| 収穫面積(百万ha) | 5.49 | 4.05 | 3.90 (3.20) | 0.10   | ▲ 3.7 |
| 単収(t/ha)   | 7.68 | 6.67 | 6.41 (7.50) | ▲ 0.04 | ▲ 3.9 |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2023)  
IGC 「Grain Market Report」(29 June 2023)

図：とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移

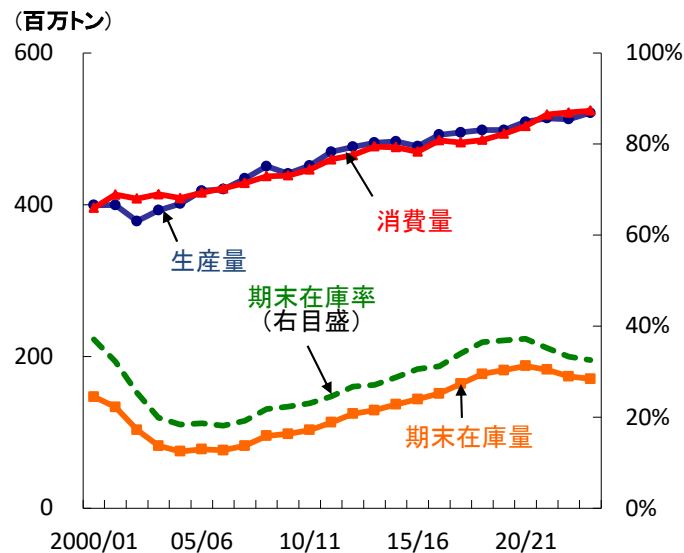


資料：USDA 「PS&D」 (2023. 7. 12) をもとに農林水産省にて作成。

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

|                                                  |      |   |            |   |
|--------------------------------------------------|------|---|------------|---|
| <米国農務省（USDA）の見通し>                                |      |   | 2023/24 年度 |   |
| 生産量                                              | 前年度比 | ↑ | 前月比        | ↑ |
| ・米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。                |      |   |            |   |
| 消費量                                              | 前年度比 | ↑ | 前月比        | ↑ |
| ・タイ等で下方修正も、ベトナム、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。 |      |   |            |   |
| 輸出量                                              | 前年度比 | ↑ | 前月比        | ↑ |
| ・ベトナム、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。                    |      |   |            |   |
| 期末在庫量                                            | 前年度比 | ↓ | 前月比        | ↑ |



資料：USDA「PS&D」（2023. 7. 12）をもとに農林水産省にて作成

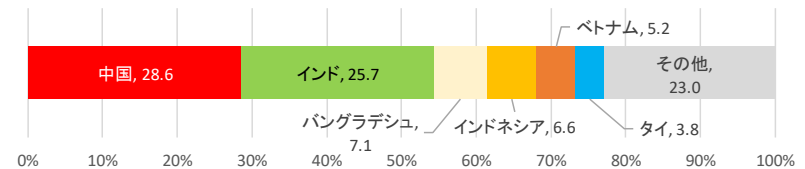
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

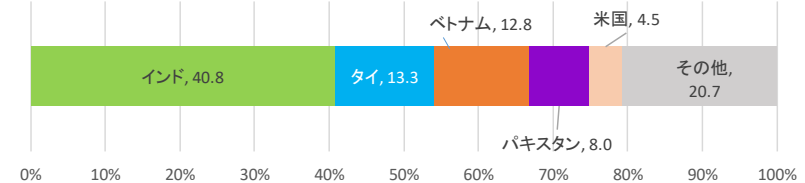
| 年 度   | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 |               |                |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 513.7   | 512.5            | 520.8   | 0.3           | 1.6            |
| 消 費 量 | 518.6   | 521.4            | 523.9   | 0.1           | 0.5            |
| 輸 出 量 | 56.9    | 55.6             | 56.4    | 0.6           | 1.5            |
| 輸 入 量 | 54.7    | 54.5             | 54.2    | 0.7           | ▲ 0.7          |
| 期末在庫量 | 182.4   | 173.6            | 170.4   | 0.2           | ▲ 1.8          |
| 期末在庫率 | 35.2%   | 33.3%            | 32.5%   | 0.0           | ▲ 0.8          |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 July, 2023)

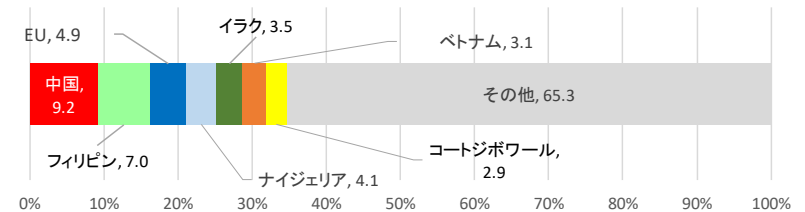
○ 2023/24年度 世界のコメの生産量(520.8百万トン) (単位：%)



○ 2023/24年度 世界のコメの輸出量(56.4百万トン) (単位：%)



○ 2023/24年度 世界のコメの輸入量(54.2百万トン) (単位：%)



## （２）国別のコメの需給動向

### ＜ 米国 ＞ 2023/24 年度の収穫面積は前年度より 21.6%増

【生育・生産動向】米国農務省（USDA）の「作付面積報告（Acreage）」（2023.6.30）によれば、本年度の収穫面積は前年度比 21.6%増加し 107.0 万ヘクタールとなる見込み。2023/24 年度の生産量も、前月予測から 0.3%上方修正され、前年度比 25.3%増の 6.4 百万トンとなる見込み。

このうち、長粒種の収穫面積は、降雨過多で作付けが阻害された前年度と異なり、平年並みの天候だったことから、前年度比 10.7%増加し 79.5 万ヘクタールの見通し。また、深刻な干ばつで 2 年連続作付面積が減少した中・短粒種の収穫面積は、前年度比 71.1%増加して 27.6 万ヘクタールの見込み。長粒種よりも単収が高い中・短粒種の収量増加により、全体の単収も高くなる見込み。

同「Crop Progress」（2023.7.17）によれば、7 月 16 日時点で主要生産 6 州の出穂率は 36%と、前年同期（27%）、過去 5 年平均（29%）を上回っている。7 月上旬にはルイジアナ州（出穂率 72%）で収穫が開始され、また、テキサス州でも、7 月下旬から収穫が開始される見込み。主要生産 6 州の作柄評価は「良～やや良」が 73%と、前年同期（72%）とほぼ同水準。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、生産量の増加見通しから、前月予測からわずかに上方修正され、前年度比 3.4%増の 4.9 百万トンと、史上最高の見込み。増産による国内供給量増加で国内取引価格が下落していることも背景にある。

2023/24 年度の輸入量は、前月予測からわずかに下方修正され、国内での生産量増加に伴う中・短粒種の輸入減少から、前年度比 0.8%減の 1.2 百万トンの見込み。

2023/24 年度の輸出量は、特に中・短粒種の生産量増加と、それに伴う米国産米の価格の低下見通しから、前月予測から 0.2%上方修正され、前年度比 27.0%増の 2.5 百万トンの見込み。

USDA「Rice Outlook」（2023.7.14）によれば、7 月 11 日までの週のイラク向け長粒種（2 等、砕米 4 %混入）の価格は 760 ドル/トンと、本年 1 月末以降、2008 年 10 月初旬（772 ドル/トン）以来の高値となっている（P.20 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。地中海向けカリフォルニア米（1 等、砕米 4 %混入）である中粒種の価格は 1,650 ドル/トンと、前年 12 月末以降で最高の価格水準となっている。

## コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは 1/4  
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約 2 割

（単位：百万精米トン）

| 年 度   | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 (23年 8 月～24年 7 月) |               |                |
|-------|---------|------------------|---------------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値                       | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 6.1     | 5.1              | 6.4                       | 0.3           | 25.3           |
| 消 費 量 | 4.8     | 4.8              | 4.9                       | 0.0           | 3.4            |
| 輸 出 量 | 2.7     | 2.0              | 2.5                       | 0.2           | 27.0           |
| 輸 入 量 | 1.2     | 1.2              | 1.2                       | ▲ 0.0         | ▲ 0.8          |
| 期末在庫量 | 1.3     | 0.8              | 0.9                       | ▲ 0.0         | 16.0           |
| 期末在庫率 | 17.0%   | 12.0%            | 12.6%                     | ▲ 0.7         | 0.6            |

（参考）

|            |      |      |      |      |      |
|------------|------|------|------|------|------|
| 収穫面積(百万ha) | 1.01 | 0.88 | 1.07 | 0.04 | 21.6 |
| 単収(もみt/ha) | 8.64 | 8.28 | 8.52 | 0.02 | 2.9  |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July, 2023)

写真：アーカンソー州の生育状況の風景（6 月 28 日撮影）。現在、節間伸長期にある。



## < インド > 2023年7月20日よりバスマティ米以外の輸出を禁止

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、史上最高であった前年度の収穫面積が減少する（前年度比 1.5%減）との予想から、前年度比 1.5%減の134.0 百万トンの見込み。単収は、史上最高だった前年度と同水準の見込み。

本年の南西モンスーンの開始は過去4年間で最も遅く、1週間以上遅れて6月8日となった。北東部の産地は例年通りの降雨があったものの、他地域では十分な降雨にならず作付けが遅れていた。6月下旬からは例年通りの降雨となり、北東部では豪雨も発生した。7月に入り、更に降雨量が増加したものの、東部の雨季米の産地では6月1日以降、土壌水分不足が続いている。

インド農業農民福祉省によると、カリフ米作付済み面積は、7月14日時点で12.3百万ヘクタールと、前年同期（13.1百万ヘクタール）に比べ0.8百万ヘクタール少ない状況。作付け進捗率は30.8%と、前年度の32.9%より遅れている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度比1.3%増の114.0百万トンと史上最高の見込み。前年度に引き続き、政府の低所得世帯向け食料配給プログラム（約8億人が対象）向けにコメが供給される見込み（2022年4月～2023年3月は65百万トン）。

2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、依然としてタイ・ベトナム等他の主要輸出国と比べて最も価格競争力があることから、前年度比2.2%増の23.0百万トンと史上最高となり、世界第1位の輸出国として、世界の輸出量の41%を占める見込み。

インドは、カリフ米の生産減少による国内価格高騰を抑制する観点から、前年9月9日に輸出規制を発動（砕米（100%）の輸出禁止及びバスマティ米・パーボイルド米以外のコメへの輸出税課税（20%））したが、更なる国内価格抑制と国内の供給量確保のため、7月20日にバスマティ米以外の精米の輸出を禁止した。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2023.7.12）によれば、インド産米（砕米5%混入）の7月11日までの週の輸出価格は470ドル/トンと、前月から15ドル/トン上昇したものの、アジア主要輸出国の中で依然として最低の価格水準（P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。

2023/24年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度比8.6%減の32.0百万トンの見込み。

## コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

（単位：百万精米トン）

| 年 度        | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24（23年10月～24年9月） |               |                |
|------------|---------|------------------|-----------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、()はIGC            | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 129.5   | 136.0            | 134.0 (135.0)         | -             | ▲ 1.5          |
| 消 費 量      | 110.5   | 112.5            | 114.0 (113.7)         | -             | 1.3            |
| 輸 出 量      | 22.0    | 22.5             | 23.0 (22.2)           | -             | 2.2            |
| 輸 入 量      | 0.0     | 0.0              | 0.0 (0.0)             | -             | -              |
| 期末在庫量      | 34.0    | 35.0             | 32.0 (30.1)           | -             | ▲ 8.6          |
| 期末在庫率      | 25.7%   | 25.9%            | 23.4% (22.2%)         | -             | ▲ 2.6          |
| （参考）       |         |                  |                       |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 46.28   | 47.70            | 47.00 (47.00)         | -             | ▲ 1.5          |
| 単収(もみt/ha) | 4.20    | 4.28             | 4.28 (2.88)           | -             | -              |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July, 2023)  
IGC「Grain Market Report」(29 June, 2023)（単収は精米t/ha）

## 図：インドのコメ輸出量と輸先国（2022年4月～2023年3月）

（単位：万トン）

※年度は2022年4月～2023年3月

| 品 種 別   | 2022/23 | シェア    |
|---------|---------|--------|
| 非バスマティ米 | 1778.6  | 79.6%  |
| バスマティ米  | 455.9   | 20.4%  |
| 合計      | 2234.5  | 100.0% |

| 非バスマティ米<br>輸出先国 | 2022/23 | シェア    | バスマティ米<br>輸出先国 | 2022/23 | シェア    |
|-----------------|---------|--------|----------------|---------|--------|
| 1 ベナン           | 155.8   | 8.8%   | 1 イラン          | 99.9    | 21.9%  |
| 2 中国            | 150.4   | 8.5%   | 2 サウジアラビア      | 95.4    | 20.9%  |
| 3 セネガル          | 133.3   | 7.5%   | 3 イラク          | 36.4    | 8.0%   |
| 4 コートジボワール      | 121.1   | 6.8%   | 4 アラブ首長国連邦     | 31.5    | 6.9%   |
| 5 トーゴ           | 94.0    | 5.3%   | 5 イエメン         | 29.0    | 6.4%   |
| 合計              | 1778.6  | 100.0% | 合計             | 455.9   | 100.0% |

資料：「agriXchange」をもとに農林水産省にて作成。

## < 中国 > 一期作稲、及び南部の二期作早稲の生育は順調

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度の干ばつから回復して収穫面積が増加し、史上最高の単収が見込まれることから、前年度比2.1%増の149.0百万トンと、史上最高となる見込み。なお東北部では、政府の大豆作付け推進政策により、コメの作付面積が減少傾向にある。

中国中央气象台（2023.7.10）によれば、一期作稲は、東北地区、長江流域の大部分で分げつ期から節間伸長期に、一部では緑化期に入っており、また、西南地区は分げつ期から節間伸長期に、一部地域では穂ばらみ期や出穂期に入っている。生育状況は、ほとんどの地域で通常通りかやや早い状況。二期早生稲は、華南の大部分で主に乳熟期と成熟期に差し掛かっており、長江流域の大部分は出穂期から乳熟期に入っている。ほとんどの稲の生育状況は平年並みか3～7日早く、順調に成長している。二期晩生稲は、華南の一部の地域で三葉期に入っているが、大部分の地域では播種から出芽期に入っている。長江流域のほとんどの地域は三葉期に入り、部分的に播種から出芽期となっている。ほとんどの地域で生育状況は通常またはやや早く、順調である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、とうもろこしの増産見込みによる飼料用米の消費量の減少から、前年度比1.9%減の152.0百万トンの見込み。

2023/24年度の輸入量は、前月予測から変更はないものの、2023年5月のインド、パキスタン、タイからの輸入量が予想よりも少なかったことから、2022/23年度の輸入量が下方修正されたものの、前年度比8.7%増の5.0百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2023年5月の輸入量は27.7万トン（前年同期比57.9%減）、1～5月の輸入量は163.7万トン（前年同期比43.6%減）となった。

なお、中国はこれまで、とうもろこし等飼料用穀物の価格高騰を背景に、飼料用等として低価格の碎米をインド等から輸入してきたが、2022年9月以降、インドの輸出禁止等により減少している。

中国外交部によれば、4月14日にブラジル農業畜産省と中国税関総署が、コメを含むブラジル産農産物の中国への輸出に関する衛生検疫手続の協議の促進に合意した。

## コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)

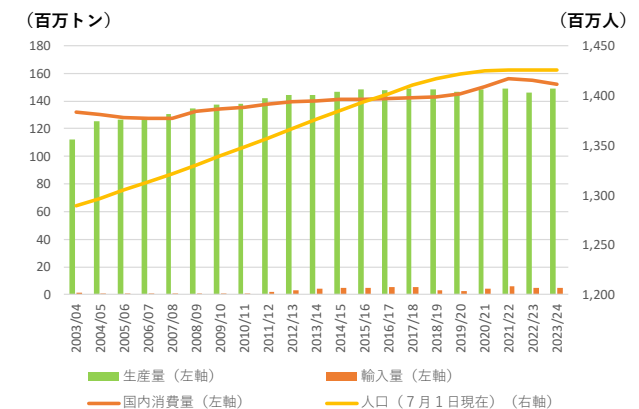
| 年 度   | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 (23年7月～24年6月) |           |            |  |
|-------|---------|------------------|-----------------------|-----------|------------|--|
|       |         |                  | 予測値、()はIGC            | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) |  |
| 生産量   | 149.0   | 146.0            | 149.0 (148.9)         | -         | 2.1        |  |
| 消費量   | 156.4   | 155.0            | 152.0 (150.6)         | -         | ▲ 1.9      |  |
| 輸 出 量 | 2.1     | 1.8              | 2.0 (2.0)             | -         | 11.1       |  |
| 輸 入 量 | 6.0     | 4.6              | 5.0 (4.4)             | -         | 8.7        |  |
| 期末在庫量 | 113.0   | 106.8            | 106.8 (105.8)         | -         | 0.0        |  |
| 期末在庫率 | 71.3%   | 68.1%            | 69.4% (69.3%)         | -         | 1.2        |  |

(参考)

|            |       |       |               |   |     |
|------------|-------|-------|---------------|---|-----|
| 収穫面積(百万ha) | 29.92 | 29.45 | 29.85 (29.45) | - | 1.4 |
| 単収(もみt/ha) | 7.11  | 7.08  | 7.13 (4.96)   | - | 0.7 |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July, 2023)  
IGC「Grain Market Report」(29 June, 2023) (単収は精米t/ha)

図：中国のコメ生産量・消費量・輸入量と人口の推移（2017～2023年）



資料：USDA「PS&D」(2023.7.12)及び国連「World Population Prospects 2022」をもとに農林水産省にて作成。なお2022年、2023年の人口は予測値。

## < タイ > 雨季米の主要産地は十分な降雨も、その他産地の降雨は平年以下

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、水不足や生産コスト上昇等により、雨季米の収穫面積が前年度比 2.3%減少となり、前年度比 2.5%減の 19.7 百万トンの見込み。

2022/23 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、良好な天候と十分な降雨により、2021/22 年度比 1.5%増の 20.2 百万トンの見込み。

タイは5月下旬に雨季に入った。当初は例年よりも降雨が少なかったが、6月下旬に雨季米の主産地である北東部で十分な降雨があった。他方で、北東部以外の地域では、依然平年以下の降雨となっている。

IGCによると、エルニーニョ現象による降雨減少予測から、タイを含め 2023/24 年度の東南アジア全体のコメ生産が影響を受ける可能性があるとのこと。

アセアン食料安全保障情報システム（2023.7）によると、2023 年は例年よりも雨季の開始が遅く、5～6月の降雨も少なかったため、雨季米の作付けは、作付面積予測の約 40%と、前年よりも進捗が遅れている。これを受け、収益性が高いキャッサバやサトウキビ等への作付転換や、耕作放棄も見られる。水不足や病害虫発生リスクが高いため、単収も減少が予想される。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 11.8%減の 7.5 百万トンの見込み。

2022/23 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、2021/22 年度比 10.4%増の 8.5 百万トン。

タイ米輸出業者協会によれば、2023 年 1～5 月の輸出量は、前年同期比 26.4%増の 346.7 万トンとなった。検疫問題で7年間停止していたタイ産米の輸入を 2022 年に再開したイラクが 59.3 万トン（前年同期 41.5 万トン）、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシアは、前年同期の 0.9 万トンから大幅増の 46.5 万トンとなった。そのほか、南アフリカが 36.4 万トン（同 25.4 万トン）と増加している一方、米国は 29.8 万トン（同 34.5 万トン）と減少。

USDA「Rice Outlook」（2023.7.14）によれば、7月11日までの週のタイ産米（長粒、2等精米）の輸出価格は、世界からの旺盛な需要により前月から 14 ドル上昇し、531 ドル/トンとなった（P.20 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。

## コメ・タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインデ  
ィカ米を栽培

| 年 度        | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 (24年1月～24年12月) |               |                |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、()はIGC             | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 19.9    | 20.2             | 19.7 (20.7)            | -             | ▲ 2.5          |
| 消 費 量      | 12.8    | 12.8             | 12.5 (12.9)            | ▲ 0.2         | ▲ 2.3          |
| 輸 出 量      | 7.7     | 8.5              | 7.5 (8.2)              | -             | ▲ 11.8         |
| 輸 入 量      | 0.1     | 0.1              | 0.1 (0.3)              | ▲ 0.1         | -              |
| 期末在庫量      | 3.4     | 2.4              | 2.1 (6.0)              | ▲ 0.1         | ▲ 10.5         |
| 期末在庫率      | 16.7%   | 11.2%            | 10.7% (28.7%)          | ▲ 0.2         | ▲ 0.5          |
| (参考)       |         |                  |                        |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 10.70   | 10.85            | 10.60 (10.85)          | -             | ▲ 2.3          |
| 単収(もみt/ha) | 2.81    | 2.82             | 2.82 (1.86)            | -             | -              |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July, 2023)  
IGC「Grain Market Report」(29 June, 2023)（単収は精米t/ha）

## 表：タイの国別輸出量

| (単位：万トン)  |                |                |                     |
|-----------|----------------|----------------|---------------------|
| 国名        | 2022 年<br>1～5月 | 2023 年<br>1～5月 | 増減量                 |
| 1 イラク     | 41.5           | 59.3           | 17.8                |
| 2 インドネシア  | 0.9            | 46.5           | 45.6                |
| 3 南アフリカ   | 25.4           | 36.4           | 10.9                |
| 4 米国      | 34.5           | 29.8           | ▲ 4.8               |
| 5 日本      | 12.1           | 16.7           | 4.6                 |
| 6 中国      | 28.9           | 16.0           | ▲ 12.9              |
| 7 セネガル    | 8.2            | 14.4           | 6.2                 |
| 8 カメルーン   | 7.0            | 11.8           | 4.7                 |
| 9 バングラデシュ | 0.0            | 11.5           | 11.5                |
| 10 モザンビーク | 6.2            | 6.6            | 0.4                 |
| 計         | 274.2          | 346.7          | 72.5<br>(前年比26.4%増) |

資料：タイ米輸出業者協会（2023.7）

## < ベトナム > 北部では冬春作の収穫が終了。南部では雨季米早稲の収穫開始

【生育・生産動向】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積はわずかに減少も、単収は過去最高だった前年度の水準を維持する見込みから、前年度並みの 27.0 百万トンの見込み。肥料高騰や高収益作物等（果物・野菜・養殖）への転換等により、生産量は 2014/15 年度の史上最高の 28.2 百万トンを境に、緩やかな低下傾向にある。

2022/23 年度の実産量は、前月予測から変更はなく、2021/22 年度比 1.1%増の 27.0 百万トンの見込み。

アセアン食料安全保障情報システム（2023.7）によると、北部では冬春作（乾季米）の収穫が終了。単収は 6.44 もみトン/ヘクタールと、十分な灌漑用水と良好な天候から、昨年度から 3.5%増加する見込み。なお、夏秋作（雨季米）は作付けが続いており、発芽期にある。灌漑用水が十分なため、作柄は良好。南部のメコンデルタ地域では、夏秋作（雨季米）が幼穂形成期から穂ばらみ期にある。雨季米早稲は収穫が始まり、その他の雨季米の収穫も今月から開始される。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、豊富な供給量から、前月予測より 0.5 百万トン上方修正されたものの、2023 年にインドネシアへの備蓄向け輸出が終了すること等から、前年度比 4.0%減の 7.2 百万トンの見込み。

2022/23 年度の輸出量も、豊富な供給量から、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、7.5 百万トンの見込み。

ベトナム関税総局によれば、2023 年 1～6 月の輸出量は 424.2 トンと、前年同期（349.3 万トン）に比べ 21.4%増加した。主な輸出先国は、フィリピン（169.9 万トン）、中国（67.7 万トン）、インドネシア（49.3 万トン）、ガーナ（27.4 万トン）の順。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」（2023.7.12）によれば、ベトナム産米（長粒種、5%碎米混入）の 7 月 11 日までの週の価格は、現在収穫されている夏秋作の供給がタイトなことや旺盛な国内外の需要から、前月の価格から 16 ドル/トン上昇して 519 ドル/トンと、2021 年 3 月以来の高値となった。

## コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

| 年 度        | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 (24年 1月～24年12月) |               |                |
|------------|---------|------------------|-------------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、()はIGC              | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 26.7    | 27.0             | 27.0 (28.0)             | -             | -              |
| 消 費 量      | 21.5    | 21.6             | 21.7 (22.0)             | 0.1           | 0.5            |
| 輸 出 量      | 7.1     | 7.5              | 7.2 (7.3)               | 0.5           | ▲ 4.0          |
| 輸 入 量      | 1.7     | 1.7              | 1.7 (1.1)               | 0.4           | -              |
| 期末在庫量      | 2.5     | 2.1              | 1.9 (2.9)               | 0.1           | ▲ 9.7          |
| 期末在庫率      | 8.6%    | 7.1%             | 6.4% (9.8%)             | 0.3           | ▲ 0.6          |
| (参考)       |         |                  |                         |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 7.10    | 7.17             | 7.16 (7.10)             | -             | ▲ 0.1          |
| 単収(もみt/ha) | 6.01    | 6.03             | 6.03 (3.90)             | -             | -              |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July, 2023)、  
IGC 「Grain Market Report」(29 June, 2023) (単収は精米t/ha)

図：長粒種の FOB 価格の推移



資料：USDA 「Grain : World Markets and Trade」(2023.7.12)より。

## Ⅱ 油糧種子 大豆

### (1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

＜米国農務省（USDA）の見通し＞ 2023/24 年度

**生産量** 前年度比  前月比 

・米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

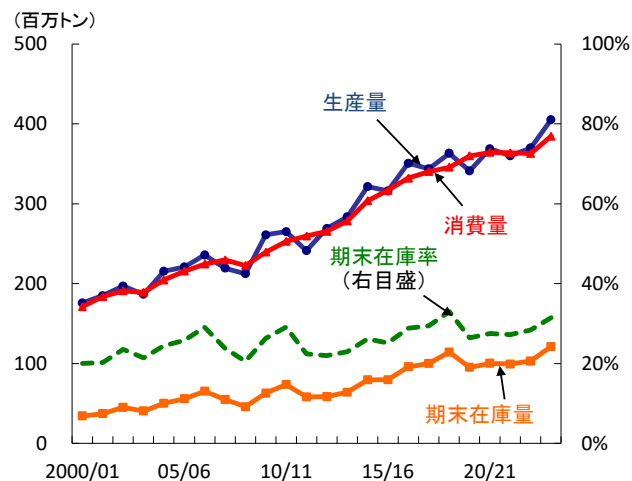
**消費量** 前年度比  前月比 

・エジプト、バングラディッシュ、パキスタン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比  前月比 

・カナダで上方修正されたものの、米国で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

**期末在庫量** 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」(2023.7.12)をもとに農林水産省で作成

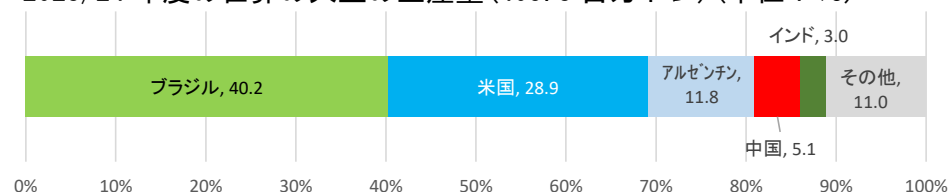
## ◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

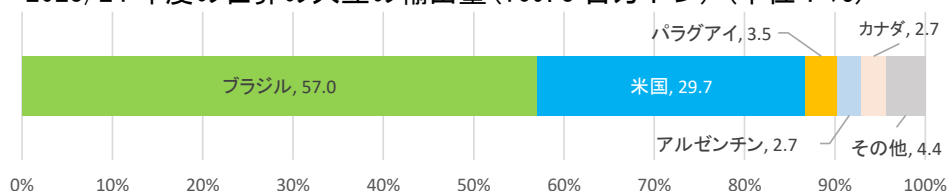
| 年 度   | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 |           |            |
|-------|---------|------------------|---------|-----------|------------|
|       |         |                  | 予測値     | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) |
| 生産量   | 360.1   | 369.7            | 405.3   | ▲ 5.4     | 9.6        |
| 消費量   | 363.8   | 362.8            | 384.5   | ▲ 1.6     | 6.0        |
| うち搾油用 | 314.4   | 311.2            | 330.3   | ▲ 1.7     | 6.1        |
| 輸出量   | 153.9   | 168.9            | 169.3   | ▲ 3.1     | 0.2        |
| 輸入量   | 156.6   | 165.8            | 166.6   | ▲ 3.3     | 0.5        |
| 期末在庫量 | 99.1    | 102.9            | 121.0   | ▲ 2.4     | 17.6       |
| 期末在庫率 | 27.2%   | 28.4%            | 31.5%   | ▲ 0.5     | 3.1        |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 July 2023)

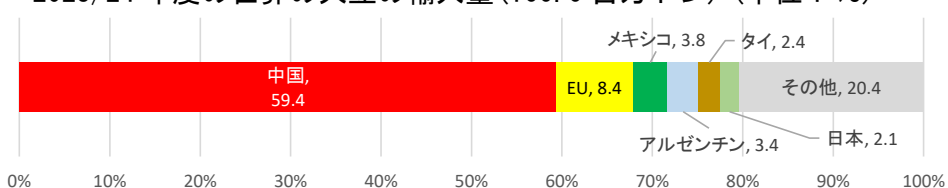
### ○ 2023/24 年度の世界の大豆の生産量 (405.3 百万トン) (単位：%)



### ○ 2023/24 年度の世界の大豆の輸出量 (169.3 百万トン) (単位：%)



### ○ 2023/24 年度の世界の大豆の輸入量 (166.6 百万トン) (単位：%)



## （２）国別の大豆の需給動向

### ＜ 米国 ＞ 作付面積の減少により、生産量は 5.7 百万トン下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、米国作付面積報告「Acreage」（2023.6.30）において作付面積が減少したことを受け、前月予測から 5.7 百万トン下方修正されたものの、単収の増加等により前年度より 0.6%増の 117.0 百万トンの見通し。

USDA「Crop Progress」（2023.7.17）によれば、7 月 17 日現在で主要 18 州における開花進捗率は 56%と、前年同時期（46%）、過去 5 年平均（51%）を上回っている。また、作柄評価の「良～やや良」の比率は 55%となり、6 月中旬の乾燥の影響で 7 月 2 日には 50%まで悪化したものの、7 月上旬の降雨を受け緩和された。しかし、前年同時期（61%）を下回っている。7 月から 8 月にかけての開花期から着莢期における天候に注意が必要。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の実消費量は、バイオ燃料・飼料用需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 3.6%増の 66.0 百万トンで史上最高の見込み。ただし、前月予測から 0.3 百万トン下方修正された。背景としては、環境志向に伴い、バイオ燃料向けの搾油工場の新設による需要増が見込まれているものの、米国政府が 6 月 21 日に発表した最終的なバイオ燃料の混合義務が市場予測を下回ったことがあるとみられる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、生産量の下方修正による供給減により前月予測から 3.4 百万トン下方修正され前年度より 6.6%減の 50.4 百万トンの見込み。史上最高の豊作見通しとなったブラジル産と比べ相対的な価格競争力が落ちていることが要因とみられる。

USDA によれば、2023/24 年度の実在庫量は、南米産との競争により輸出量が減少することから、前年度より 17.4%増の 8.2 百万トンとなる見込み。なお、作付面積調査を受け生産量が下方修正されたことにより、前月予測から 3.4 百万トン下方修正された。

USDA によれば、2023 年輸出量（2023 年 1 月 1 日～6 月 30 日）は 20.3 百万トンと、前年度同時期（20.9 百万トン）を下回っている。内訳は中国（11.0 百万トン）、メキシコ（2.1 百万トン）、ドイツ（1.5 百万トン）の順。

## 大豆－米国

（単位：百万トン）

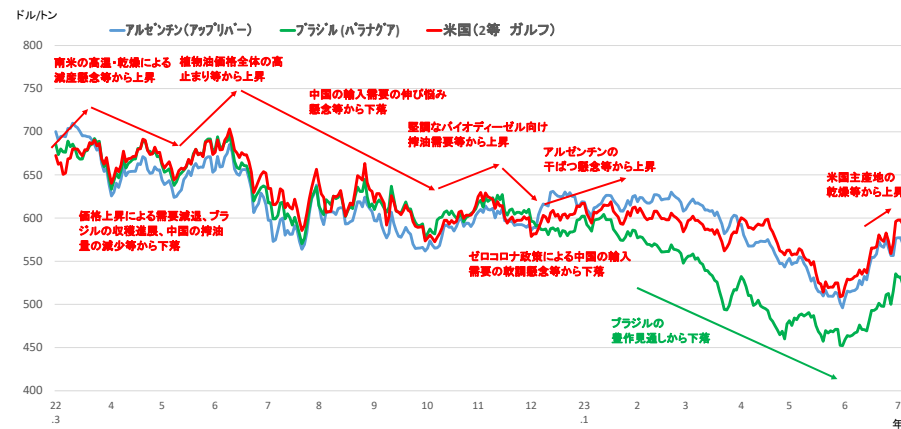
| 年 度   | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 (23年 9 月～24年 8 月) |               |                |
|-------|---------|------------------|---------------------------|---------------|----------------|
|       |         |                  | 予測値                       | 前月予測から<br>の変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量 | 121.5   | 116.4            | 117.0                     | ▲ 5.7         | 0.6            |
| 消 費 量 | 62.9    | 63.7             | 66.0                      | ▲ 0.3         | 3.6            |
| うち搾油用 | 60.0    | 60.4             | 62.6                      | ▲ 0.3         | 3.6            |
| 輸 出 量 | 58.6    | 53.9             | 50.4                      | ▲ 3.4         | ▲ 6.6          |
| 輸 入 量 | 0.4     | 0.7              | 0.5                       | -             | ▲ 20.6         |
| 期末在庫量 | 7.5     | 7.0              | 8.2                       | ▲ 1.4         | 17.4           |
| 期末在庫率 | 6.1%    | 5.9%             | 7.0%                      | ▲ 0.9         | 1.1            |

(参考)

|            |       |       |       |        |     |
|------------|-------|-------|-------|--------|-----|
| 収穫面積(百万ha) | 34.93 | 34.94 | 35.09 | ▲ 1.62 | 0.4 |
| 単収(t/ha)   | 3.48  | 3.33  | 3.50  | -      | 5.1 |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」（12 July 2023）

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

## < ブラジル > 2022/23 年度の収穫はほぼ完了し、生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 10 月以降作付けが開始される 2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、作付面積が史上最大となる見通しから、前年度より 4.5%増の 163.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) 月例報告 (2023.7.13) によれば、2022/23 年度の実生産量は、前年度より 23.1%増の 154.6 百万トンの見通し。最大生産州のマト・グロッソ州では、栽培技術の改善と良好な天候に恵まれ、増産となった。ただし、7 月見通しでは、干ばつの影響を受けた南部のリオ・グランデ・ド・スール州で単収が予想を下回ったことから、1.2 百万トン下方修正された。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用の大豆粕需要が増加することから、前年度より 5.1%増の 59.7 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、2 年連続で生産量が史上最高を更新し、価格競争力が高まる見込みから、前年度より 2.7%増の 96.5 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2023 年 1 月～6 月の輸出量は 62.8 百万トンで、前年同期 (53.0 百万トン) に比べ 18.5%増となっている。輸出先は、中国 (43.5 百万トン)、アルゼンチン (3.0 百万トン)、スペイン (2.2 百万トン) の順。堅調な中国向け輸出に加え、干ばつにより減産したアルゼンチンへの搾油用需要を満たすための輸出が大幅に増加した。

「OIL WORLD Monthly」(2023.6.30) によれば、7 月以降、ブラジルの輸出港におけるとうもろこし輸出が本格化する見込みであり、大豆輸出と競合する可能性がある。

## 大豆—ブラジル

(単位: 百万トン)

| 年 度        | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 (23年10月～24年9月) |               |                |  |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------------|----------------|--|
|            |         |                  | 予測値、()はIGC             | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |  |
| 生 産 量      | 130.5   | 156.0            | 163.0 (160.0)          | -             | 4.5            |  |
| 消 費 量      | 54.0    | 56.8             | 59.7 (59.6)            | -             | 5.1            |  |
| うち搾油用      | 50.7    | 53.0             | 55.8 (56.3)            | -             | 5.2            |  |
| 輸 出 量      | 79.1    | 94.0             | 96.5 (98.0)            | -             | 2.7            |  |
| 輸 入 量      | 0.5     | 0.3              | 0.5 (0.3)              | -             | 80.0           |  |
| 期末在庫量      | 27.6    | 33.1             | 40.3 (10.7)            | ▲ 0.5         | 21.9           |  |
| 期末在庫率      | 20.7%   | 21.9%            | 25.8% (6.8%)           | ▲ 0.3         | 3.9            |  |
| (参考)       |         |                  |                        |               |                |  |
| 収穫面積(百万ha) | 41.60   | 43.90            | 45.60 (44.75)          | -             | 3.9            |  |
| 単収(t/ha)   | 3.14    | 3.55             | 3.57 (3.58)            | -             | 0.6            |  |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2023)  
IGC 「Grain Market Report」(29 June 2023)

### ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2022/23年度の実作付けは、2022年9月以降、順次開始。  
2023年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培。

| 2022/23年度 | 2022年 |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     | 2023年 |    |    |    |    |    |    |    |    |
|-----------|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|
|           | 1月    | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月    | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
| 夏とうもろこし   |       |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |       |    |    |    |    |    |    |    |    |
|           |       |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |       |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 冬とうもろこし   |       |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |       |    |    |    |    |    |    |    |    |
|           |       |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |       |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 大豆        |       |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |       |    |    |    |    |    |    |    |    |
|           |       |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |       |    |    |    |    |    |    |    |    |

資料: CONAB穀物レポート (2023.7.13)

＜ アルゼンチン ＞ 2022/23 年度の輸入量は、減産により史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 11 月以降作付けが開始される 2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥の影響を大きく受けた前年度から回復する見通しから 92.0%増の 48.0 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2023.6.29）によれば、収穫が終了した 2022/23 年度の生産量は、21.0 百万トン（過去 5 年平均（45.0 百万トン）より 53%減）と低水準となった。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、増産に伴い搾油量が回復することから前年度比 18.5%増の 43.0 百万トンの見込み。なお、2023/24 年度の搾油用需要が前月予想よりさらに回復する見通しから前月予測から 0.3 百万トン上方修正された。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要に乏しく、前年度より 34.5%減の 5.7 百万トンの見込み。

2022/23 年度の輸入量は、国内生産が減少したことを受け、搾油用需要を満たすためにブラジル産及びパラグアイ産の輸入が急増したため、8.7 百万トンで史上最高の見込み。アルゼンチン国家統計局によれば、2023 年 4・5 月の輸入量は 261.6 万トンで、前年同時期（93.8 万トン）の 2.8 倍。

2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、干ばつにより減産し価格競争力が弱まった前年度から生産量が回復する見込みから、前年度より 21.1%増の 4.6 百万トンの見込み。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆最大 33%、大豆油及び大豆粕 31%と設定。2022 年 3 月に、大豆油及び大豆粕の輸出税について 2022 年末まで 2%引き上げたが、2023 年 1 月からは 31%に戻している。

アルゼンチン政府は、今般の干ばつ対策として、農業関係者に対し、融資や減税、割引手形の発行、各種税の支払い猶予措置などの救済施策を発表した。また、外貨獲得のため、4 月 10 日から 5 月 31 日までの間の 45 日間を超えない範囲で、大豆優遇為替レート（1 ドル＝300 ペソ）を適用した。

現地情報によると、外貨獲得のため 4 回目の大豆優遇為替レートの導入を政府が検討しているとの噂が流れているが、6 月 28 日、農務長官は「今のところはない」と述べ、即座の導入を否定した。

大豆ーアルゼンチン

| 年 度        | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 (23年10月～24年9月) |         |               |                |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、()はIGC             |         | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 43.9    | 25.0             | 48.0                   | (44.0)  | -             | 92.0           |
| 消 費 量      | 46.0    | 36.3             | 43.0                   | (42.8)  | 0.3           | 18.5           |
| うち搾油用      | 38.8    | 30.0             | 36.3                   | (39.0)  | 0.3           | 20.8           |
| 輸 出 量      | 2.9     | 3.8              | 4.6                    | (5.1)   | -             | 21.1           |
| 輸 入 量      | 3.8     | 8.7              | 5.7                    | (5.5)   | -             | ▲ 34.5         |
| 期末在庫量      | 23.9    | 17.6             | 23.7                   | (3.6)   | ▲ 0.3         | 35.0           |
| 期末在庫率      | 48.9%   | 43.8%            | 49.8%                  | (7.6%)  | ▲ 0.8         | 6.0            |
| (参考)       |         |                  |                        |         |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 15.90   | 15.00            | 16.40                  | (16.10) | -             | 9.3            |
| 単収(t/ha)   | 2.76    | 1.67             | 2.93                   | (2.73)  | -             | 75.4           |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 July 2023)  
IGC「Grain Market Report」(29 June 2023)

表：アルゼンチン大豆輸入量、輸入先国  
（4 月以降、ブラジル産及びパラグアイ産の  
輸入が急増）

| 2022/23年度<br>(2023年 4 月～5 月) |          |         |
|------------------------------|----------|---------|
| 国名                           | 輸入量 (万t) | シェア (%) |
| ブラジル                         | 123.5    | 47.2    |
| パラグアイ                        | 122.9    | 47.0    |
| ボリビア                         | 15.2     | 5.8     |
| 計                            | 261.6    | 100.0   |

資料：アルゼンチン国家統計局（INDEC）のデータ  
をもとに農林水産省で作成。

< 中国 > 2023/24 年度の生産量・消費量は史上最高

【生産・生育状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、単収が減少するものの、収穫面積が増加することから、全体として前年度より 1.1%増の 20.5 百万トンで史上最高の見込み。

2 月 13 日に公表された中国共産党・国務院（内閣に相当）の中央 1 号文件には、引き続き大豆の作付け拡大の取組等について記載された。

なお、6 月末現在、主産地の東北地区の黒竜江省等では第三本葉期から開花期を迎えている。当初降雨は少なかったが、6 月から 7 月にかけての降雨と 6 月中旬の生育に適した気温により、概ね平年と比べ順調に生育しているとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の大豆粕需要と食料需要が増加することにより、前年度より 4.7%増の 118.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、前年度の在庫が上方修正され国内需要の一部を満たすとの見通しから、前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、前年並みの 99.0 百万トンの見込み。

農業農村部によれば、2023 年 1 月から 5 月までの間の輸入量は、前年同時期より 11.2%増の 4,230.6 万トン。内訳は、ブラジル（2014.8 万トン）、米国（1,918.3 万トン）、アルゼンチン（142.9 万トン）の順。5 月に新穀が収穫された安価なブラジル産の輸入量が急増した（前年同時期比 40.3%増）。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023 年 5 月号」によれば、5 月の輸入価格（山東省の輸入大豆価格）は、前月（5,260 元/トン）から下落し、5,040 元/トンとなった。一方、5 月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は、前月（5,920 元/トン）から下落し、5,720 元/トンとなった。国家備蓄の売却と輸入大豆の入荷により、下落傾向で推移するとみられる。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、前月予測からわずかに下方修正されたものの、前年度より 3.8%増の 38.2 百万トンで史上最高の見込み。2023/24 年度の期末在庫率は、前月予測からわずかに下方修正され、前年度から 0.3 ポイント減少し、32.3%となる見込み。

大豆－中国

| (単位：百万トン)  |         |                  |                        |         |               |                |
|------------|---------|------------------|------------------------|---------|---------------|----------------|
| 年 度        | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24 (23年10月～24年9月) |         |               |                |
|            |         |                  | 予測値、()はIGC             |         | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 16.4    | 20.3             | 20.5                   | (21.5)  | -             | 1.1            |
| 消 費 量      | 108.4   | 112.7            | 118.0                  | (117.7) | -             | 4.7            |
| うち搾油用      | 87.9    | 91.0             | 95.0                   | (97.8)  | -             | 4.4            |
| 輸 出 量      | 0.1     | 0.1              | 0.1                    | (0.1)   | -             | ▲ 23.1         |
| 輸 入 量      | 91.6    | 99.0             | 99.0                   | (98.9)  | ▲ 1.0         | -              |
| 期末在庫量      | 30.3    | 36.8             | 38.2                   | (33.1)  | ▲ 0.0         | 3.8            |
| 期末在庫率      | 27.9%   | 32.6%            | 32.3%                  | (28.1%) | ▲ 0.0         | ▲ 0.3          |
| (参考)       |         |                  |                        |         |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 8.42    | 10.24            | 10.45                  | (10.44) | -             | 2.1            |
| 単収(t/ha)   | 1.95    | 1.98             | 1.96                   | (2.06)  | -             | ▲ 1.0          |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」 (12 July 2023)  
IGC 「Grain Market Report」 (29 June 2023)

表：中国の大豆輸入量と輸入先国

| 2023年 5 月 |        |      | 2023年 1 月～2023年 5 月 |        |      | 2022年 1 月～2022年 5 月 |        |      |
|-----------|--------|------|---------------------|--------|------|---------------------|--------|------|
| 国名        | 輸入量    | シェア  | 国名                  | 輸入量    | シェア  | 国名                  | 輸入量    | シェア  |
| ブラジル      | 1093.8 | 91.0 | ブラジル                | 2014.8 | 47.6 | ブラジル                | 2046.6 | 53.8 |
| 米国        | 94.5   | 7.9  | 米国                  | 1918.3 | 45.3 | 米国                  | 1676.9 | 44.1 |
| ロシア       | 9.0    | 0.8  | アルゼンチン              | 142.9  | 3.4  | ロシア                 | 25.2   | 0.7  |
| ベナン       | 1.9    | 0.2  | カナダ                 | 92.2   | 2.2  | カナダ                 | 23.7   | 0.6  |
| エチオピア     | 1.7    | 0.1  | ロシア                 | 48.5   | 1.1  | ベナン                 | 13.8   | 0.4  |
| タンザニア     | 0.4    | 0.0  | エチオピア               | 5.1    | 0.1  | アルゼンチン              | 12.3   | 0.3  |
| その他       | 0.7    | 0.0  | その他                 | 8.8    | 0.1  | その他                 | 4.7    | 0.1  |
| 計         | 1202.0 | 100  | 計                   | 4230.6 | 100  | 計                   | 3803.2 | 100  |

資料：中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 作付面積の増加により、生産量は2.0百万トン上方修正

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2023.7.21）によれば、2023/24年度の実産量は、作付面積調査を受けた収穫面積増により前月予測から0.2百万トン上方修正され、前年度から6.1%増の6.9百万トンの見込み。前年度からの増加要因は、単収が3.01トン/ヘクタールと高水準の単収だった前年度より低下するものの、収穫面積が2.28百万ヘクタールと前年度より増加することによる。

AAFCによれば、主産地のカナダ東部では、一部で高温の影響を受けて生育状況にばらつきがあり、今後の生育期に降雨が必要とされている。

カナダの大豆生産は、小麦やなたねと異なり、東部のオンタリオ州が主産地で、生産量の半分以上のシェアがある。オンタリオ州に隣接するマニトバ州、ケベック州でも生産されている。

カナダ統計局「Principal field crop areas, June 2023」（2023.6.28）によれば、作付面積は前年度より6.8%増の2.28百万ヘクタールで、過去5年平均並みの見込み。オンタリオ州では前年より5.4%減の1.17百万ヘクタールである。一方、マニトバ州では、前年度の史上最高の単収を受け農家が作付面積を増やしたことから、40.6%増の0.65百万ヘクタールの見込み。

【需要状況】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からわずかに上方修正され、前年度から1.9%増の2.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、増産による輸出余力の増大により前月予測から0.2百万トン上方修正され、前年度より4.6%増の4.6百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会（Canadian Grain Commission）によれば、2022/23年度（2022年8月～2023年7月）のうち、2022年8月～2023年5月の輸出量は310.8万トンで、前年度同時期（280.9万トン）を上回っている。国別では、中国向け（128.8万トン）が41%を占め、続いてイラン（49.0万トン）、アルジェリア（36.5万トン）、イタリア（25.1万トン）の順。2023年5月の輸出量は4.3万トンで、全量がイラン向けである。

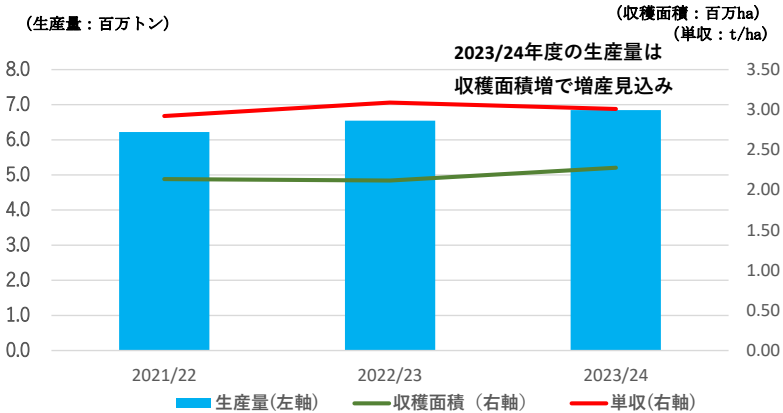
AAFCによれば、2023/24年度の期末在庫量は、面積増による増産見通しから期末在庫が増加し、前月予測から5万トン上方修正され、前年度から14.3%増の0.4百万トンの見込み。

大豆－カナダ

| 年 度        | 2021/22 | 2022/23<br>(見込み) | 2023/24（23年8月～24年7月） |               |                |
|------------|---------|------------------|----------------------|---------------|----------------|
|            |         |                  | 予測値、()はAAFC          | 前月予測<br>からの変更 | 対前年度<br>増減率(%) |
| 生 産 量      | 6.2     | 6.5              | 6.7 (6.9)            | 0.2           | 2.4            |
| 消 費 量      | 2.3     | 2.6              | 2.7 (2.5)            | 0.0           | 1.9            |
| うち搾油用      | 1.8     | 1.9              | 1.9 (1.9)            | ▲ 0.1         | 2.7            |
| 輸 出 量      | 4.3     | 4.4              | 4.6 (4.8)            | 0.2           | 4.6            |
| 輸 入 量      | 0.5     | 0.6              | 0.5 (0.5)            | -             | ▲ 9.1          |
| 期末在庫量      | 0.4     | 0.6              | 0.6 (0.4)            | 0.1           | -              |
| 期末在庫率      | 6.5%    | 8.2%             | 7.9% (5.5%)          | 1.0           | ▲ 0.3          |
| (参考)       |         |                  |                      |               |                |
| 収穫面積(百万ha) | 2.08    | 2.12             | 2.25 (2.28)          | 0.05          | 6.1            |
| 単収(t/ha)   | 2.99    | 3.09             | 2.98 (3.01)          | 0.03          | ▲ 3.6          |

資料：USDA「PS&D」  
「World Agricultural Production」(12 July 2023)  
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(21 July 2023)

図：カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2023.7.21)をもとに農林水産省にて作成。